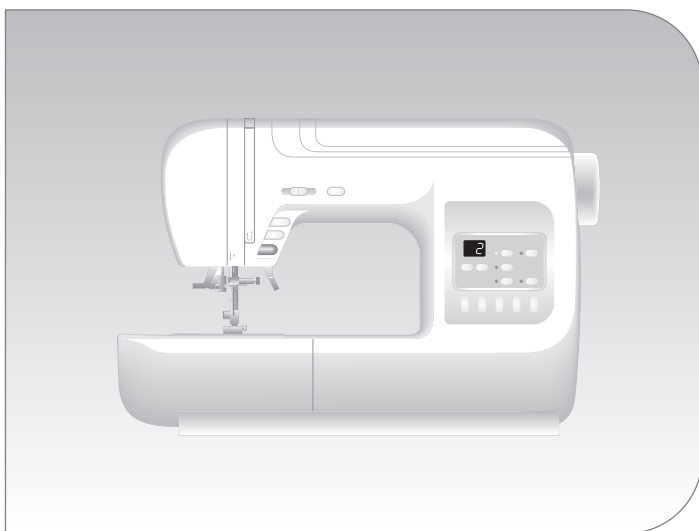




使用の手びき

型式：SC-160



SINGER®

このミシンを安全にお使いいただくため、
この「使用の手びき」をご使用の前に必ず
お読みください。

「使用の手びき」は手元に保管し、末長く
ご活用ください。

このたびは、シンガーミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。
このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用コンピュータミシンです。
このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。
「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

安全にご使用いただくために

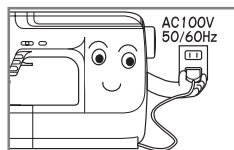
このミシンを安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.



警告

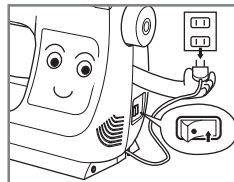
感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源100V以外では使用しないでください。



2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。

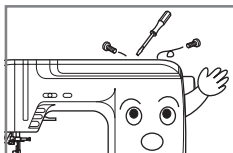
- ・ ミシンのそばを離れるとき。
- ・ ミシンを使用したあと。
- ・ ミシン使用中に停電したとき。



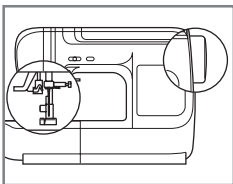
注意

感電、火災、けがなどの原因となります。

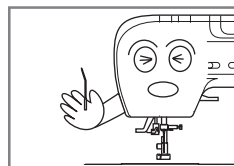
1. お客さま自身での分解、改造はしないでください。



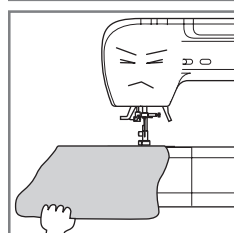
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、ハズミ車などすべての動いている部分に手を近づけないでください。



3. 曲がった針はご使用にならないでください。

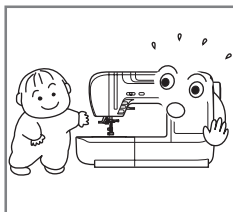


4. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。

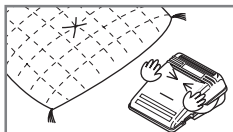


⚠ 注意 感電、火災、けがなどの原因となります。

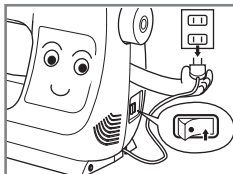
5. お子様がご使用になるときや、お子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。



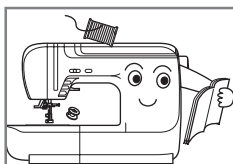
6. フットコントローラーの上に物をのせないでください。



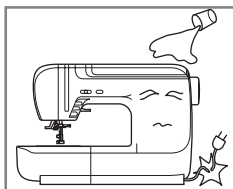
7. 使用の手びきに記載のあるミシンのお手入れを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。



8. 上糸、下糸の交換をするときは、使用の手びきの手順に従って正しく行ってください。

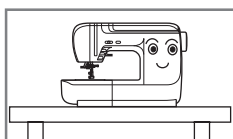


9. ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡の上、点検、修理、調整をお受けください。

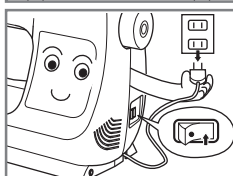


- ・ 正常に作動しないとき。
- ・ 落下などにより破損したとき。
- ・ 水に濡れたとき。
- ・ 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
- ・ 異常な臭い、音がするとき。
- ・ 中に異物が入ったとき

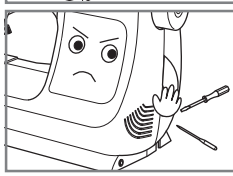
10. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。



11. 電源プラグを抜くときは、電源スイッチを切り、プラグを持って引き抜いてください。



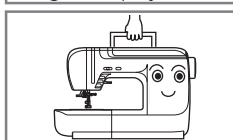
12. 換気口やスキマに異物を入れたり、ドライバーを差し込んだりしないでください。



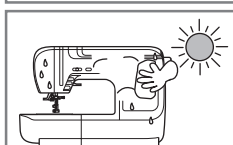
13. ミシンの通気口をふさがないでください。



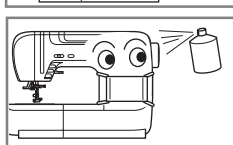
14. ミシンを持ち運ぶときは、必ずハンドルを持ってください。



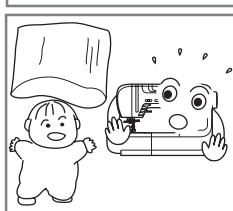
15. 直射日光に当たったり、高温多湿のところに置かないでください。



16. スプレー製品などを使った部屋では使用しないでください。

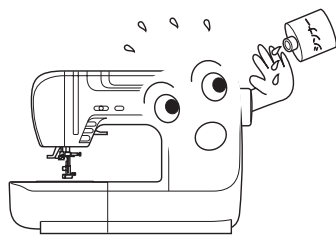


17. 袋類は、お子様がかぶらないように、お子様の手の届かないところに保管するか、廃棄してください。

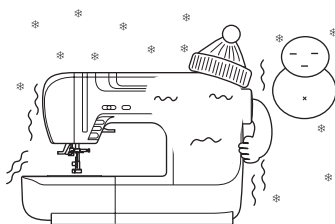


ミシンの取り扱い

- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。



- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
時間がたてば正常に作動ようになります。
保管は、なるべく寒いところをさけてください。



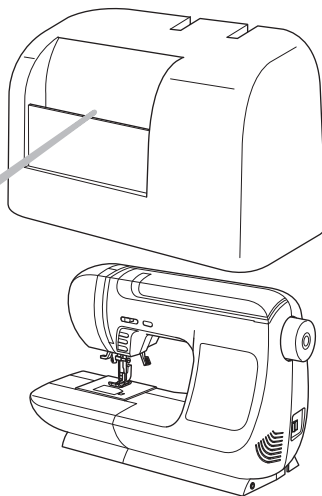
シンガーは、皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザインまたは、付属品を変更することがあります。

ミシンカバー

ミシンを使わないときは、ミシンカバーをかぶせておきましょう。

ミシンカバーの中にある緩衝材は取り外さないでください。

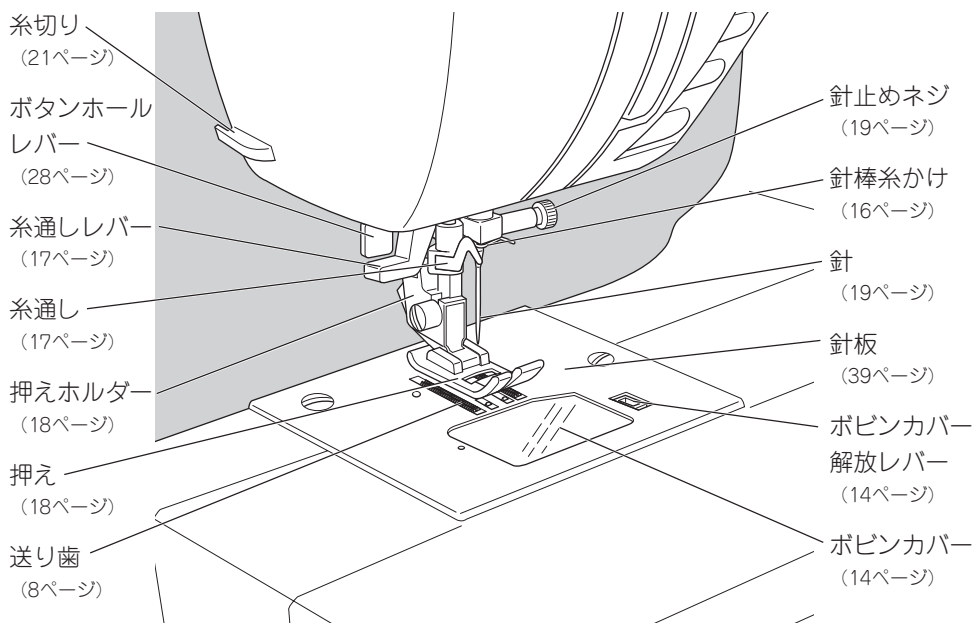
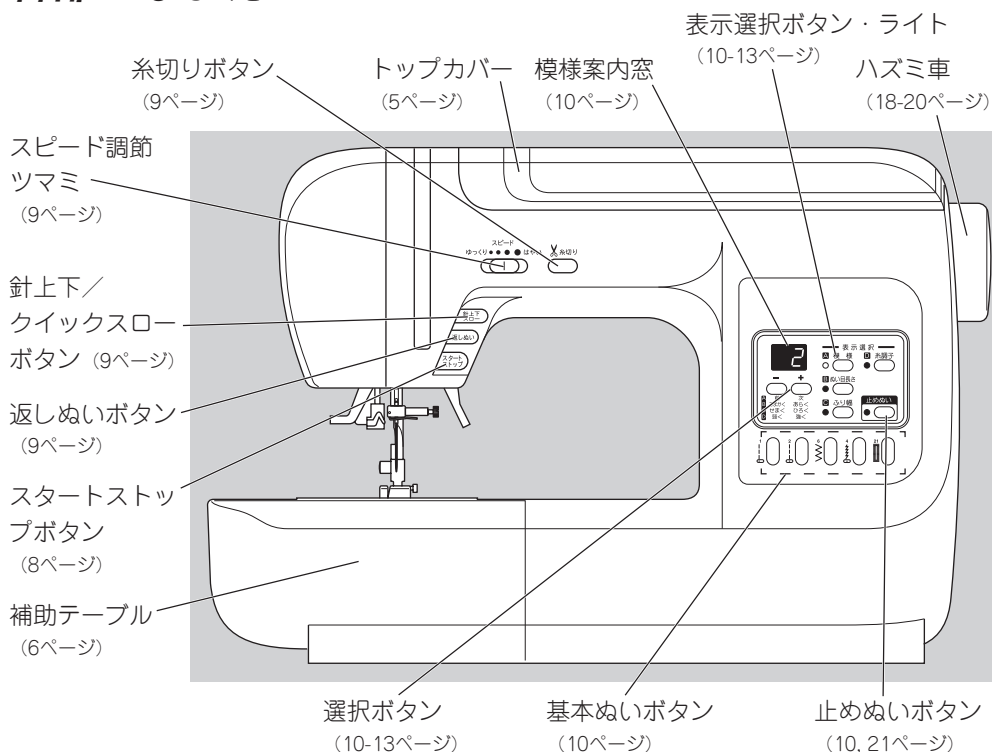
ミシンカバーには、この
手びきが収納できます。



目次

安全にご使用いただくために	表紙裏
ミシンの取り扱い	2
ミシンカバー	2
各部のなまえ	4
付属品・補助テーブル	6
付属品	6
補助テーブルの開け方	6
補助テーブルの取り外し方	6
電源を入れましょう	7
フットコントローラーのご案内（別売り） ..	7
各部のはたらき	8
スタート・ストップ ボタン	8
お知らせランプ	8
押え上げレバー	8
ドロップフィードレバー	8
スピード調節つまみ	9
糸切りボタン	9
返しぬいボタン	9
針上下／クイックスローボタン	9
模様の選び方	10
模様案内窓	10
基本ぬいの選び方	10
止めぬいボタン	10
基本ぬい以外の模様の選び方	11
模様一覧	11
ぬい目長さ	12
ふり幅	12
糸調子	13
下糸の準備	14
ボビンの取り出し方	14
下糸の巻き方	14
ボビンのセット	15
上糸の準備	16
上糸のかけ方	16
糸通しの使い方	17
下糸の引き上げ方	17
押えと押えホルダーの取りかえ方	18
押えの取りかえ方	18
押えホルダーの外し方	18
糸と針の選び方	19
針の取りかえ方	19
ぬってみましょう	20
ぬい始め～ぬい終わり	20
返しぬい	21
自動止めぬい	21
ぬい方向の変え方	22
厚地のぬい始め	22
段ぬい	22
直線ぬい（地ぬい）	23
自動返しぬい付直線ぬい	23
伸縮ぬい	24
伸縮強化ぬい	24
フリーアームぬい	24
ジグザグぬい	25
つくろいぬい（点線ジグザグぬい）	25
ふちかがりぬい（たち目かがり）	26
まつりぬい（ブラインドステッチ）	27
ボタンホールぬい	28
パッチワーク	30
アップリケ	30
ピンタック	31
飾りぬい	31
スカラップ ステッチ	31
ファスナー付け（つき合わせ・脇あき） ..	32
つき合わせ	32
脇あき	33
キルティング押えのご案内（別売り品） ..	34
キルティング押えの取り付け方	34
ぬい方（曲線ぬい）	34
上送り押えのご案内（別売り品）	35
上送り押えの取り付け方	35
ぬい方	35
こんなときには	36
ミシンのお手入れ	38
ミシン表面、ミシンカバーの掃除	38
針板と送り歯の掃除	38
外がまとボビンケースの掃除	39
修理サービス要領	40
お問い合わせまたはご相談先 （純正部品の購入方法）	41
ミシンの仕様	41

各部のなまえ



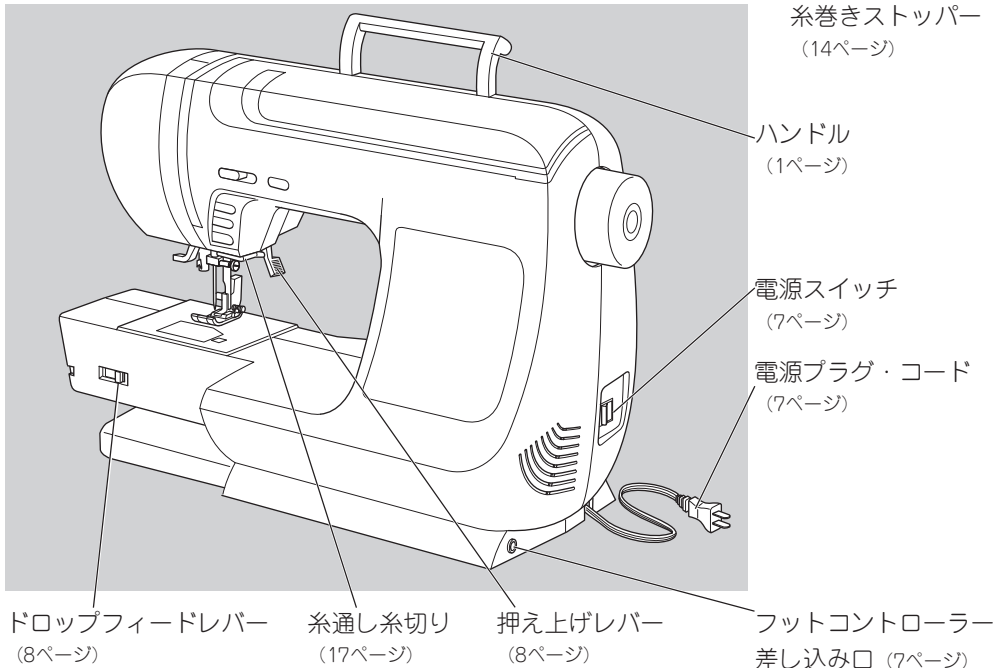
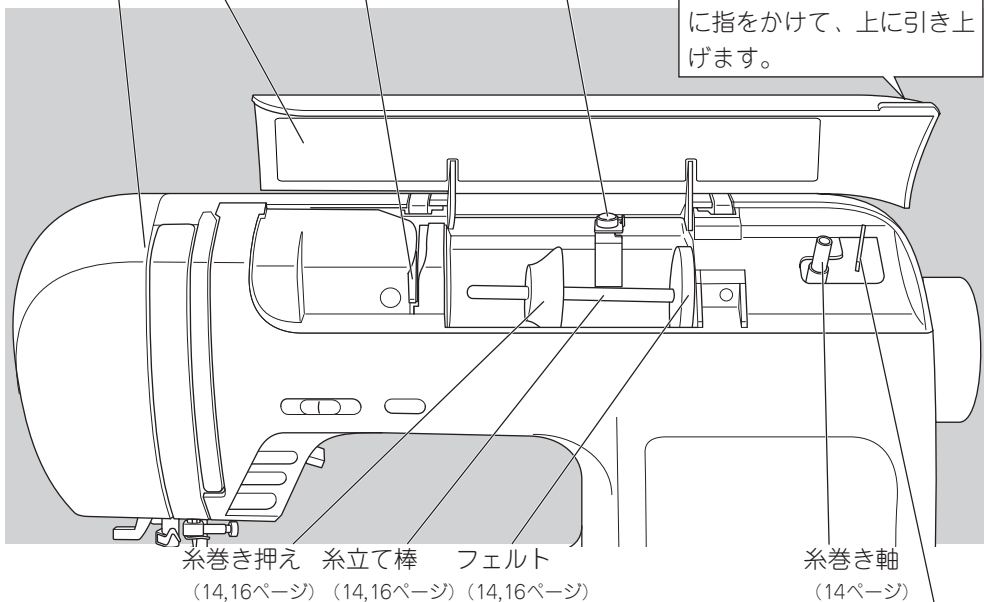
天びん（内部）
（16ページ）

模様一覧
（11ページ）

糸かけ
（14,16ページ）

糸巻き案内
（14ページ）

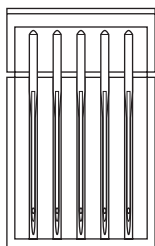
● **トップカバーのあげ方**
トップカバー右側の指かけに指をかけて、上に引き上げます。



付属品・補助テーブル

●付属品

付属品は補助テーブルの中に入っています。



針ケース（5本入り）

11番、14番、16番

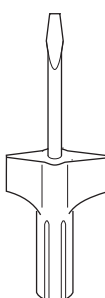
ニット針（黄色）11番、14番



ボビン



ブラシ



ドライバー



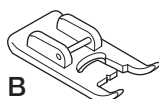
針板用



シームリッパー

●押え

押えには、わかりやすいようにそれぞれ記号がついています。



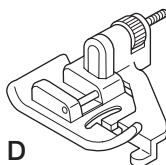
B

サテン押え



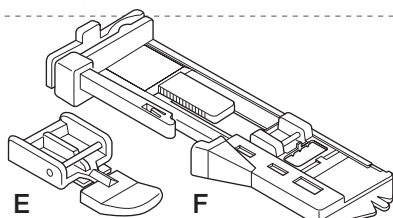
C

ふちかがり押え



D

まつりぬい
（ブラインド）押え



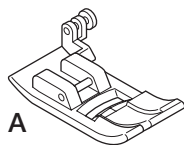
E

ファスナー押え



F

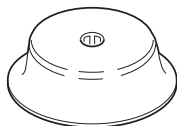
ボタンホール押え



A

ジグザグ押え

（ミシンについています）

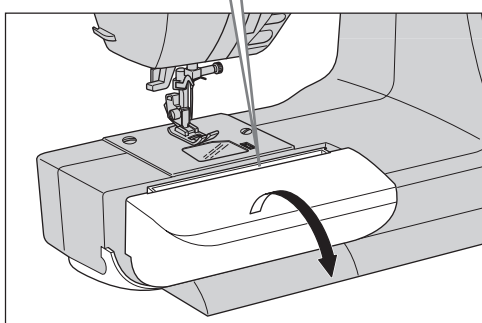


糸巻き押え

（ミシンについています）

●補助テーブルの開け方

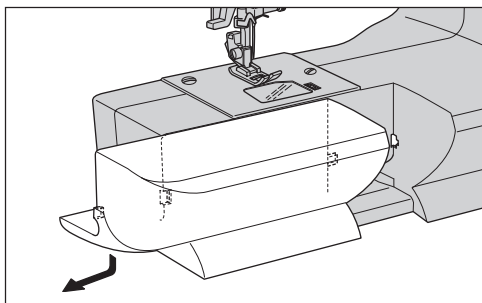
テーブル手前の角に指をかけ、手前に倒します。



●補助テーブルの取り外し方

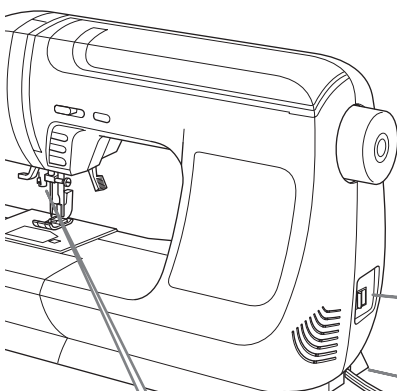
テーブルの左下に指をかけて、左に引きます。

取り付けは、テーブルのツメがミシンに入るように合わせ、右にすべり込ませます。



電源を入れましょう

ミシンを安定した場所に置きます。



- ①** 電源コードを引き出し、プラグをコンセントに差し込みます。

⚠警告：感電、火災を防ぐために；
コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤いマーク以上引き出さないでください。
黄色のマークが出たら、まもなく赤いマークです。

- ②** 電源スイッチを入れます。



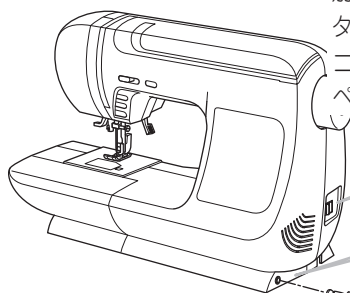
- ③** 電源を入れると、ランプが点灯します。
模様は、自動的に直線ぬい（**2**）が選べれます。



- コードをしまうときは、コードを少し引っ張って、はなしてください。

フットコントローラーのご案内（別売り）

別売りのフットコントローラーを使えば、足の操作でミシンのスタート・ストップ、スピードの調節ができるようになります。
コントローラーを接続するとスタート・ストップボタン（次ページ参照）はきかなくなります。



- ①** 電源スイッチを切ります。

- ②** コントローラーのプラグをミシンの差し込み口に差し込みます。

- ③** コントローラーを足元に置き、電源を入れなおします。

ペダルを踏むとミシンがスタートし、強く踏み込むほどスピードが速くなります。

ペダルをはなすとストップします。

スピード調節つまみ（9ページ参照）は、最高スピードを調節します。速くしたいときは、右にセットしてください。
押えを下げないとスタートしません。（次ページ参照）

- お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。
- コントローラーは、必ず「シンガー純正の専用品」をお使いください。



警告；感電、火災を防ぐために；

コントローラーは、落としたり、座ブツの下において使用しないで下さい。



注意：ケガ防止のために；

コントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってから行って下さい。

各部のはたらき

●スタート・ストップボタン

1度押すとスタートし、もう1度押すとストップします。
ぬい始めはゆっくり回ります。

●お知らせランプ

緑.... ぬいや下糸巻きの準備OK

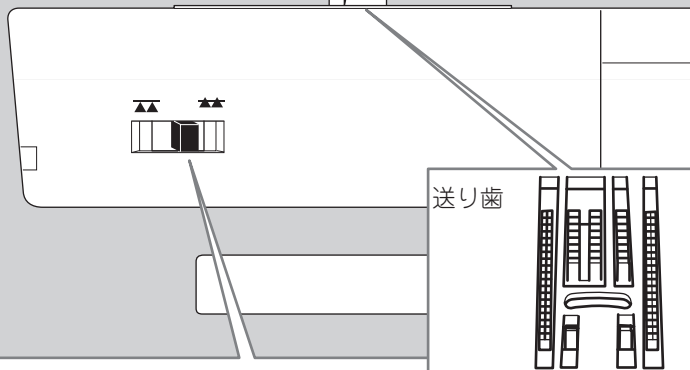
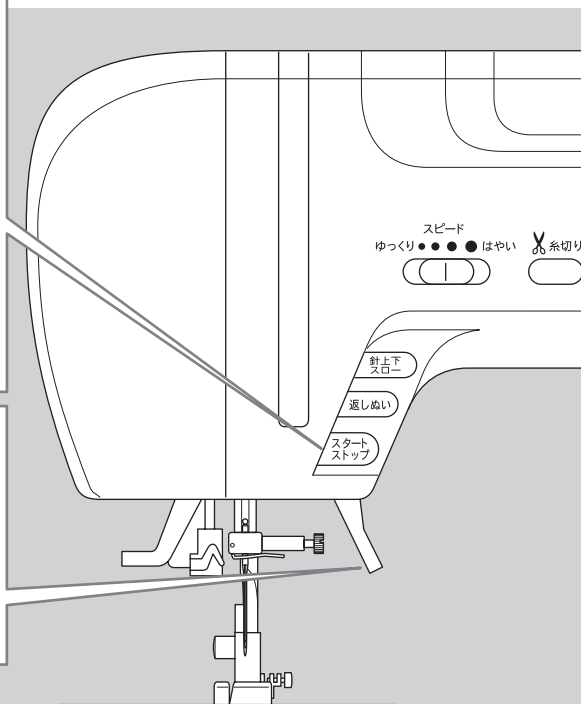
赤.... 押えやボタンホールレバーが
下りていないのでスタートし
ません。

(ボタンホールの場合2～3針ぬっ
て止まります。28ページ参照)

●押え上げレバー

このレバーで押えの上げ下げをし
ます。

押えが上がっているときは、ミシ
ンはスタートしません。(下糸巻
きを除く)



●ドロップフィードレバー

このレバーで送り歯の上げ下げをします。

レバーを右にすると、送り歯が針板の上に出てきて、布を送ります。通常は、この位置
にしておきます。

レバーを左にすると、送り歯が針板より下がり、布を送りません。キルティング押え
(別売り品：34ページ参照) を使って曲線ぬいをするときなど、布を手で操作するとき
には、この位置にします。

●スピード調節つまみ

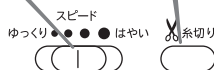
右にスライドさせると速く、
左にスライドさせるとゆっくり
になります。

●糸切りボタン

ぬいの終わりにこのボタンを押すと、上糸と下糸を
同時に切ります。

***番手が30番以下の太い糸やナイロン糸など特殊な糸には、糸切
りボタンを使わないでください。**

これらの糸を切る場合には、ミシン左側の糸切りをお使いくださ
い。（21ページ「お知らせ2」参照）



針上下
スロー
返しぬい
スタート
ストップ

●返しぬいボタン

このボタンを押している間、返
しぬいを低速でぬいます。離す
と止まります。

●針上下／クイックスローボタン

止まっているとき：針上下ボタン

ミシンが止まっているときにこのボタンを押す
と、針の位置が上下に切りかわります。

上位置から続けて2回押すと1針ぬいになります。

ぬっているとき：クイックスローボタン

ぬいの途中で1度押すと、ゆっくりぬいになりま
す。もう1度押すと、もとのぬいスピードに戻り
ます。

模様の選び方

このミシンでぬえる25の模様がトップカバー内側の模様一覧に表示してあります。

模様にはそれぞれ番号がついており、この番号で模様を選びます。

電源を入れたときには、模様（**2**）が自動的に選ばれ、模様案内窓には、模様番号「2」が表示されます。

●模様案内窓

模様案内窓は、窓の右側にある4つの表示選択ボタンで、表示内容が切りかわります。
表示選択ボタンを押すと、その表示選択ライトが点灯します。

表示選択されたときの模様案内窓の表示内容

- | | |
|----------------|-------------------------|
| A 模様 | 模様番号が表示されます。 |
| B ぬい目長さ | 選ばれた模様のぬい目長さが表示されます。 |
| C ふり幅 | 選ばれた模様のジグザグのふり幅が表示されます。 |
| D 糸調子 | 選ばれた模様の上糸調子が表示されます。 |

ぬい目長さ、ふり幅、糸調子は、模様番号を選んだときにその模様に最適な数値に自動設定されますので、変更したい場合は、模様番号を選んだ後に行います。（12、13ページ参照）
また、これらを変更した後は、別の表示に切りかえても記憶されています。

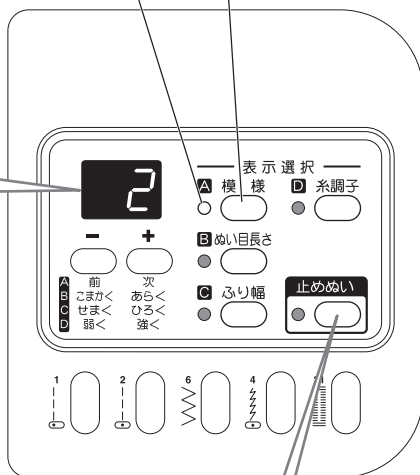
●基本ぬいの選び方

よく使われるぬい（基本ぬい）を直接選ぶことができます。

ぬいたい模様のボタンを押してください。
模様ライトが点灯し、選んだ模様番号が案内窓に表示されます。

表示選択ボタン

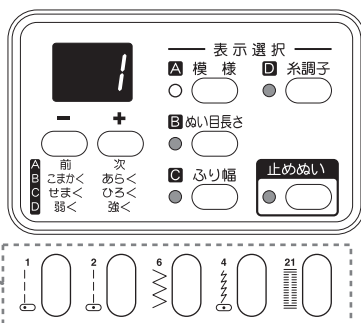
表示選択ライト



●止めぬいボタン

ぬいの始めと終わりに自動で止めぬいをします。

使い方は21ページをご覧ください。



●基本ぬい以外の模様の選び方

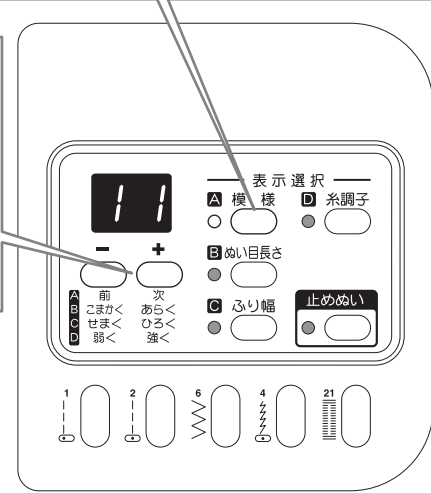
1

模様ボタンを押します。
模様ライトが点灯し、模様番号が表示されます。
すでに模様ライトが点灯しているときは、ボタンを押す必要はありません。

2

選択ボタンで模様番号を選びます。
「+」ボタンを押すごとに次の模様が、
「-」ボタンを押すごとに前の模様を選べれます。

ぬっている途中は、模様番号を変更することはできません。



●模様一覧

このミシンでぬえる模様と、模様番号の一覧です。
また、模様を選んだときに自動設定されるぬい目長さとふり幅、糸調子も表示してあります。設定を変えたい場合は、12、13ページを参照ください。
ぬい目長さとふり幅の単位は mm です。また、表示のないぬい目長さ、ふり幅は設定値から変えられません。
直線ぬい（模様1, 2, 3, 5）は、ふり幅のかわりに、ぬうときの針の左右位置表示になります。（次ページ参照）

模 様 番 号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
模 様													
ぬい目長さ	2.5	2.5	2.5	2.6	2.6	2.0	1.0	2.6	2.6	2.6	1.8	1.8	2.6
ふり幅	0.0	3.5	3.5	-.	3.5	5.0	5.0	5.0	5.5	5.5	3.0	3.0	5.0
糸調子	7	10	10	8	8	7	6	6	8	8	7	7	7

模 様 番 号	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
模 様												
ぬい目長さ	2.6	2.6	2.6	-.	2.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	2.4
ふり幅	6.0	7.0	7.0	-.	6.5	6.0	7.0	5.0	5.0	5.0	5.0	6.0
糸調子	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

●ぬい目長さ

模様を選んだときにぬい目長さは、その模様に最適な長さに自動設定されます。
これを変えるには次のようにします。

① ぬい目長さボタンを押します。

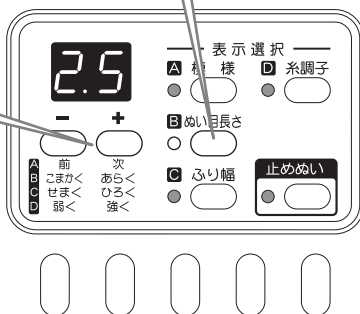
ぬい目長さライトが点灯し、案内窓にぬい目長さが数値表示されます。

② 選択ボタンでぬい目長さを調節します。

「**－**」ボタンを押すごとにこまかくなります。 「**＋**」ボタンを押すごとにあらくなります。

－ **＋**
こまかく あらく

- ぬいながらでも調節することができます。
- 最大値、最小値になるとピピピッとってお知らせします。（模様によって最大値、最小値は、異なります。）



●ふり幅

模様を選んだときにジグザグのふり幅は、その模様に最適なふり幅に自動設定されます。
これを変えるには次のようにします。

① ふり幅ボタンを押します。

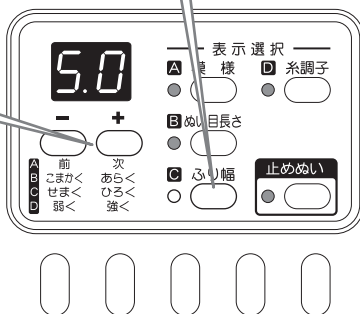
ふり幅ライトが点灯し、案内窓にふり幅が数値表示されます。

② 選択ボタンでふり幅を調節します。

「**－**」ボタンを押すごとにせまくなります。 「**＋**」ボタンを押すごとにひろくなります。

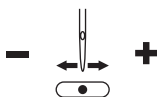
－  **＋**
せまく ひろく

- ぬいながらでも調節することができます。
- 最大値、最小値になるとピピピッとってお知らせします。（模様によって最大値、最小値は、異なります。）



- 直線ぬい（模様1, 2, 3, 5）の場合は、ふり幅のかわりに、ぬう時の針の左右位置を変えることができます。

「**－**」ボタンを押すごとに左に移動します。



「**＋**」ボタンを押すごとに右に移動します。

数 値： 0 － 3.5 － 7.0

針位置： 左 中央 右

●糸調子

模様を選んだときに上糸の糸調子は、その模様に合わせて自動設定されます。

糸調子を変えてぬいたいときは、

① 糸調子ボタンを押します。

糸調子ライトが点灯し、案内窓に糸調子が数値表示されます。

② 選択ボタンで糸調子を調節します。

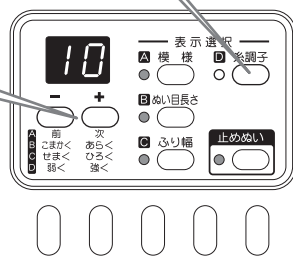
「**－**」ボタンを押すごとに弱くなります。(最小値：0)

「**＋**」ボタンを押すごとに強くなります。(最大値：20)

●ぬいながらも調節することができます。

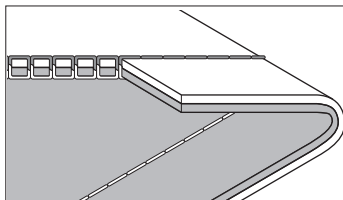
●最大値、最小値になるとピピピッと音になってお知らせします。

●自動設定値に戻すには、糸調子ボタンをもう一度押します。



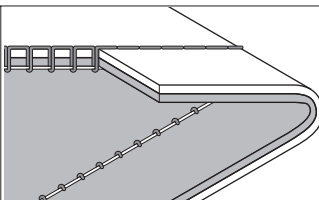
自動設定値

上糸と下糸が布地のほぼ中央でまじわります。(直線ぬい)



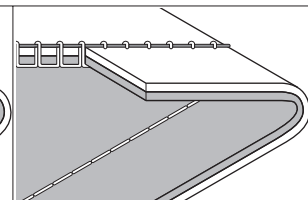
上糸が弱いぬい目

布地の裏側に上糸が出てきます。



上糸が強いぬい目

布地の表側に下糸が出てきます。



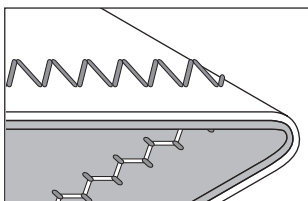
布や糸によっては設定値でも中央にまじわらない場合があります。

上糸が弱すぎる場合は、「**＋**」ボタンを押します。

上糸が強すぎる場合は、「**－**」ボタンを押します。

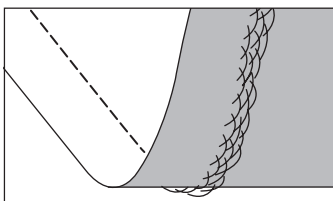
●直線ぬい以外の自動設定値

直線ぬい以外の自動設定値は、直線ぬいするときより糸調子をやや弱めにして、上糸が布の裏側に少し出るように調節されます。

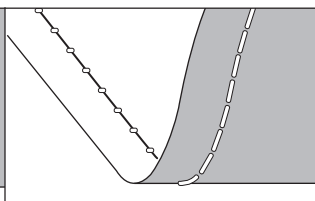


●こんな場合は…

図のように布地の上側は普通にぬえて、下側がタオル地のようにになるときは、上糸の通し方がまちがっています。16ページをご覧ください。



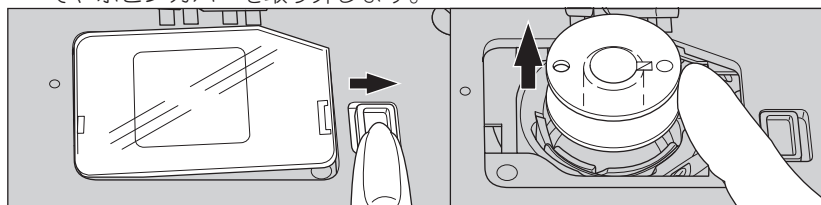
また、糸調子が自動設定値になっているのに、下糸が布地の表側に出てくるときは、ボビンのセットの仕方がまちがっています。15ページをごらんの上、正しくセットしてください。



下糸の準備

■ボビンの取り出し方

- ① ボビンカバー解放レバーを右に押して、ボビンカバーを取り外します。
- ② ボビンを取り出します。



お願い：
ボビンは、
専用のもの
をお使いく
ださい。

■下糸の巻き方

- ① トップカバーをあけます。

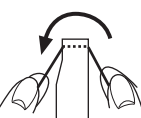
- ② 糸が下側から出るようにして、糸巻きを糸立て棒に入れ、糸巻き押えを差し込みます。

糸巻き押えは、糸巻きの大きさ に合わせて方向を変えます。
大きな糸巻き 小さな糸巻き

ご注意：
糸巻きに切りみぞがある場合、みぞに糸が引っかからないように糸巻き押えの方向を変えてください。

- ③ ミシンに表示してある①～④の順番で糸をかけます。

- ① 糸を両手で持ち、矢印にそって糸案内の後ろからかけます。



- ② 糸かけの下に右からかけ、上に引き上げます。



- ③ 糸を右に引いて、糸巻き案内の下からかけ、案内皿の間に後ろから左回りでかけます。
(皿の下に確実にかけてください。)



- ④ ボビンの穴に糸を通します。ボビンを糸巻き軸に差し込み、右へ押します。



- ④ 糸はしを持ちながら、ミシンをスタートさせます。
スピードをゆっくり調節します。



- ⑤ 少し巻いたら、いったん止めて、余分な糸を切ります。

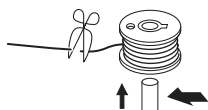


- ⑥ もう一度スタートさせます。
スピードを調節します。



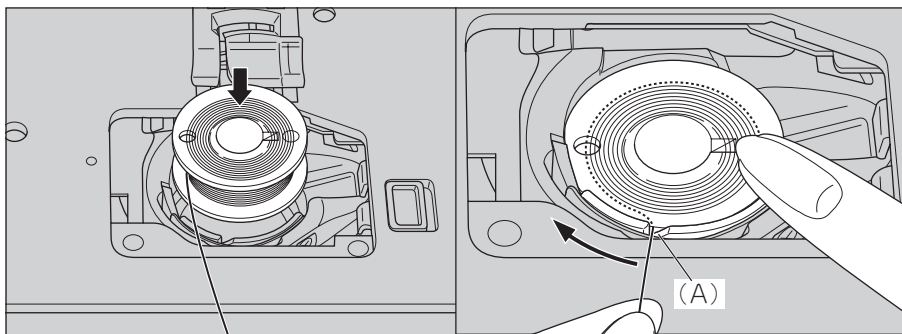
- ⑦ 糸が糸巻きストッパーにあたるまで、いっぱい巻かれると自動的にストップします。

- ⑧ 糸を切り、糸巻き軸を左に戻して、ボビンをはずします。

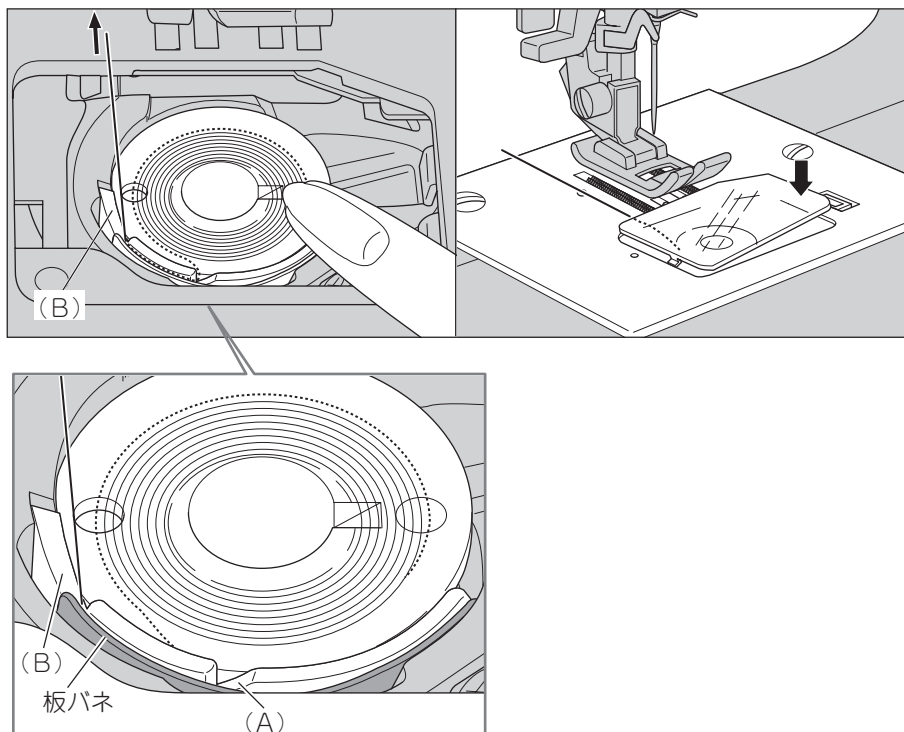


■ボビンのセット

- 1 糸が図のような方向から出るようにして、ボビンを入れます。
- 2 ボビンが回らないように押えながら、糸を手前のみぞ（A）にかけます。



- 3 糸をみぞにかけたまま、左に引き、板バネの内側を通るようにして、みぞ（B）にかけます。
- 4 糸を10cmくらい引き出します。ボビンカバーの左側のツメを針板のみぞに合わせ、右側をかるく押して、カバーを取り付けます。

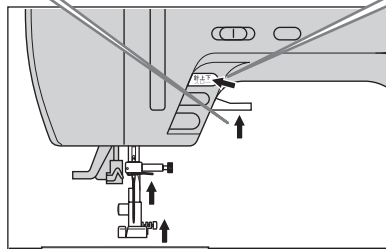


上糸の準備

■上糸のかけ方

順序よく、正しくかけてください。

1 押え上げレバーを上げます。



2 針上下ボタンで針を上上げます。

3 トップカバーをあけます。

4 糸が下側から出るようにして、糸巻きを糸立て棒に入れ、糸巻き押えを差し込みます。
フェルトを必ずセットしてください。

糸巻き押えは、糸巻きの大きさに合わせて方向を変えます。

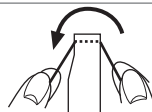


ご注意：

糸巻きに切りみぞがある場合、みぞに糸が引っかからないように糸巻き押えの方向を変えてください。

5 ミシンに表示してある 1～6 の順番で糸をかけます。

1. 糸を両手で持ち、矢印にそって糸案内の後ろからかけます。



2. 糸かけの下に右からかけ、上に引き上げます。

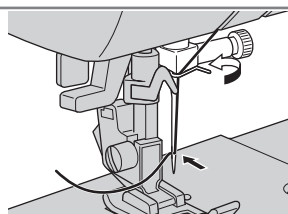


3. 糸を左に引き、矢印にそって手前におろします。

4. 右から左にかけ、上に引き上げます。

5,6. 矢印にそって右から左にかけ、下におろしてきます。(中の天びんに糸がかかります。)

6 針棒系かけにかけ、針穴に前から通します。
糸通しを使う場合は、次ページを参照ください。



■糸通しの使い方

糸通しは、11～16番の針、
50～100番の糸に使えます。

⚠注意：ケガ防止のために；

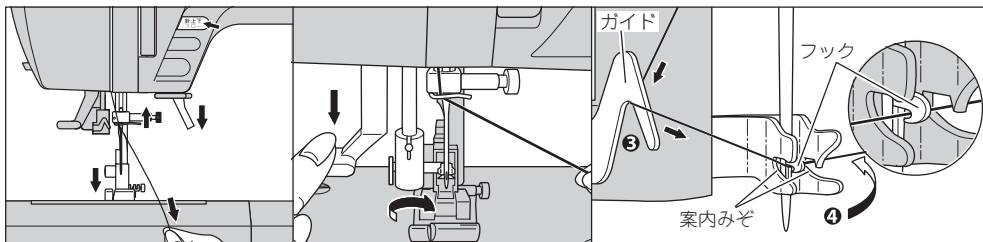
糸通しレバーを下げたとき、ハズミ車は回さないでください。
ケガや故障の原因となります。

- ①** 糸を針棒糸かけから補助テーブル手前くらいまで引き出して、押え上げレバーを下げます。

- ②** 糸通しレバーを下げて、止めます。
レバーは、下がったまま止まります。

- ③** 糸を糸通しのガイドにかけて、右にひいてきます。

- ④** 糸を案内みぞに入れます。



針が上位置にないときは、針上下ボタンで上に上げます。

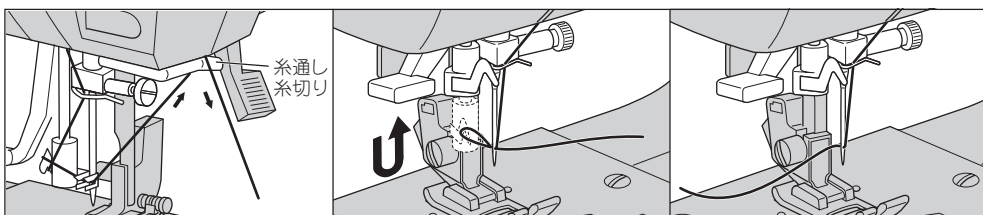
糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。

糸がフックに引っかかります。

- ⑤** 糸を糸通し糸切りに後ろから手前にかけて切ります。

- ⑥** 糸通しレバーをもう一度押し下げて、離します。

- ⑦** 糸はしを針穴から10cmくらい引き出しておきます。



糸通しが戻り、糸が輪になって針穴を通ります。

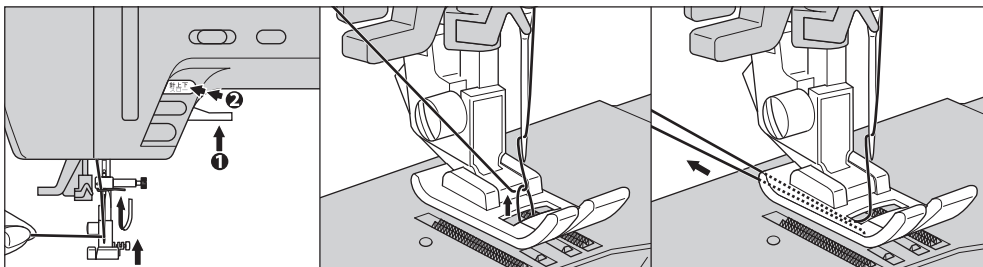
■下糸の引き上げ方

- ①** 押えを上げます。

- ②** 上糸をかるく持ちながら、針上下ボタンを2回続けて押します。

- ③** 上糸を静かに引くと、下糸が輪になって出てきます。

- ④** 上糸と下糸をそろえて押えの下から10cmくらい後ろへ出しておきます。



(はずみ車が手前に1回転します。)

押えと押えホルダーの取りかえ方

⚠注意：ケガ防止のために；

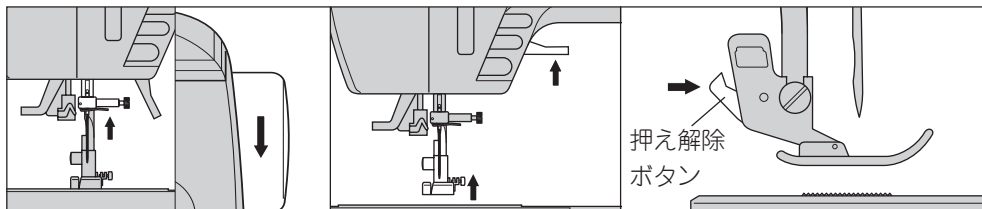
必ず電源スイッチを切ってから行なってください。



■押えの取りかえ方

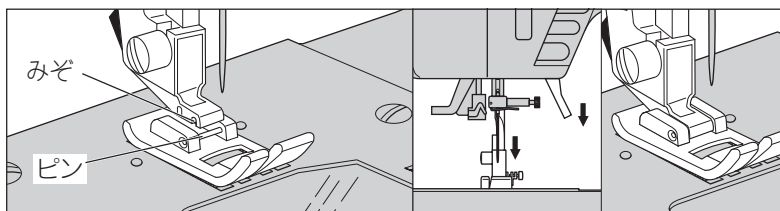
押えは、ぬいの種類や用途によって使い分けます。それぞれのぬいに適した押えが23ページ以降に示してあります。

- ① ハズミ車を手前に回して、
- ② 押え上げレバーを針を一番上に上げます。
- ③ 押え解除ボタンを押します。



押えが外れます。

- ④ 交換する押えのピンを押えホルダーのみぞの真下に合わせます。
- ⑤ 押え上げレバーを下げます。



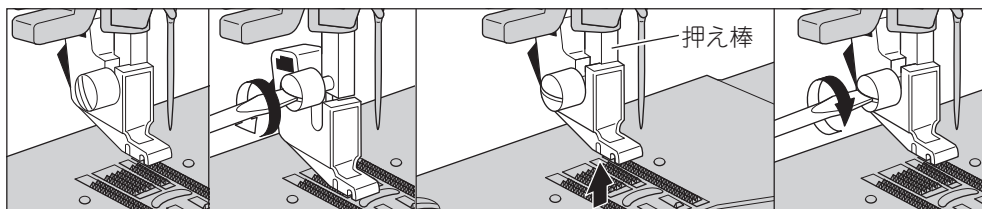
ピンがみぞにはまります。

もし、完全にはまらないときは、押え解除ボタンを押してみてください。

■押えホルダーの外し方

お手入れをするときや、キルティング押え、上送り押え（別売り品：34、35ページ参照）を取り付けるときは、押えホルダーを外します。

- ① 押えを外します。
- ② 押えホルダー止ネジをゆるめます。
- ③ 取り付けるときは、ホルダーを押え棒の下から突き当てるまで持ち上げます。
- ④ ネジをしめます。



前項「押えの取りかえ方」参照
ホルダーが外れます。

糸と針の選び方

糸と針は、布地の種類や厚さに合わせて選びます。

布地の種類	糸の番号 (番手)	針の番号	模様 (直線) とぬい目長さ
薄地	綿 80～100 絹 60～80 化繊糸 80～100	9～11番	 ぬい目長さ 1.0～2.5
普通地	綿 50～80 絹 50 化繊糸 50～80	11～14番	 ぬい目長さ 2.0～3.0
厚地	綿 30～50 絹 50 化繊糸 30～60	14～16番	 ぬい目長さ 2.0～4.0
伸縮性の布地	化繊糸 50～80 絹 50 ニット用糸	11～14番 ニット用針	

針の取りかえ方

⚠️注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行なってください。

① ハズミ車を手前に **②** 押え上げレバー **③** 針を左手で持ちながら、針止めネジをゆるめます。

④ 針ははずします。

⑤ 新しい針の平らな面を後ろにして、ピンにあたるまで差し込みます。

⑥ 付属のドライバーでネジをしっかりしめます。

⚠️注意：ケガ防止のために；

- 針は、家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。
- 曲がった針や、先がつぶれた針はご使用にならないでください。

取り付け前には、針の平らな面を下にして針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。

注意：市販の大きなドライバーなどであまり強くしめつけないでください。故障の原因となります。

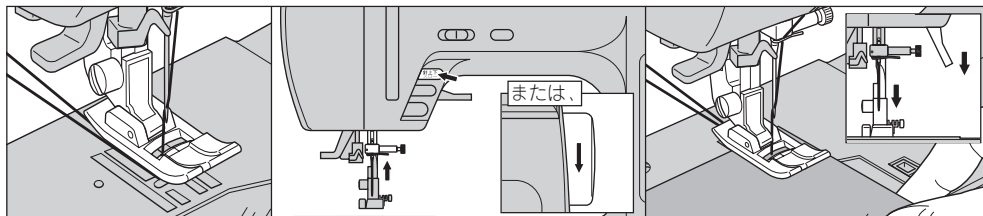
ぬってみましょう

2

電源を入れると、直線ぬい（）が選ばれます。

■ぬい始め～ぬい終わり

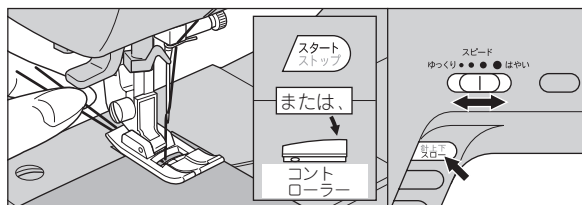
- ① 押えを確かめます。（ジグザグ押え）
- ② 針上下ボタンを押すか、ハズミ車を手前に回して、針を上上げます。
- ③ 布地を入れ、押えを下げます。



押えの取りかえ方は18ページ

お知らせランプがみどり色になります。

- ④ 糸はしをかるく後ろに持ちながら、スタートさせます。
- ぬいながらスピードを調節できます。また、ぬいの途中で針上下・クイックスローボタンを押すとゆっくりぬいになります。

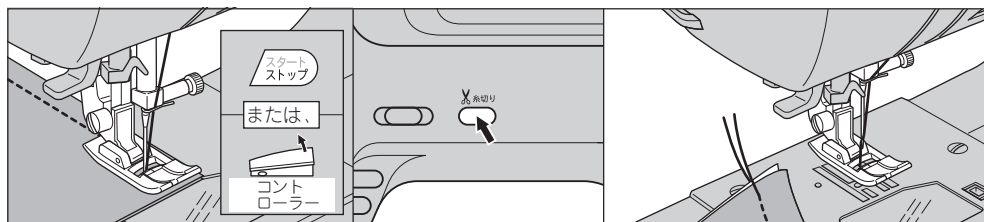


少しぬったら糸をはなします。

⚠注意：ケガ防止のために；

- 針先に十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって自動的に送られますので、無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。針が折れケガをする恐れがあります。

- ⑤ 終わりまで来たら、ストップします。
- ⑥ 糸切りボタンを押します。
- ⑦ 押えを上げ、布を引き出します。

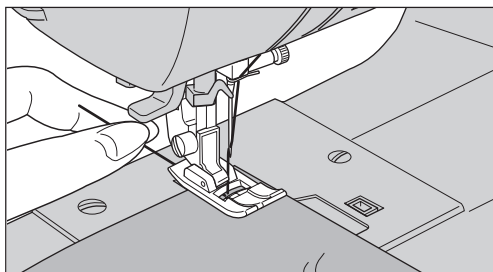


針は下位置で止まります。

- 番手が30番以下の太い糸や、ナイロン糸など特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。（次ページ「お知らせ2」参照）
- 布のないときや、糸を切る必要がないときに、むやみに糸切りボタンを押さないでください。故障の原因となります。

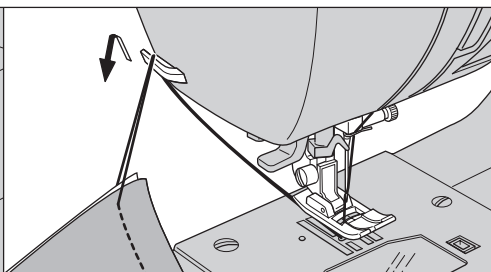
お知らせ 1

糸切りボタンで糸を切った後、次のぬい始めからは、上糸だけをもってぬい始めます。
下糸を引き出す必要はありません。



お知らせ 2

糸切りボタンを使わないときは、押えを上げて布を引き出し、ミシン左側の糸切りに糸を後ろから手前にかけて切ります。

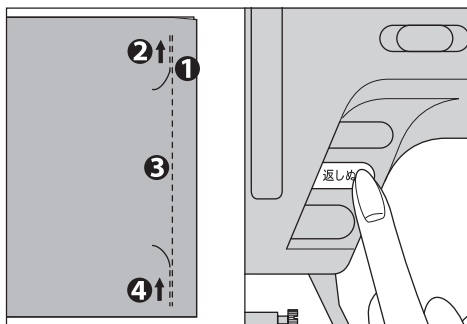


■返しぬい

ぬい目のほつれを防ぐため、返しぬいボタンを使って、ぬい始めとぬい終わりに返しぬいをします。（返しぬいボタンは、押している間、返しぬいをし、離すと止まります。）

- 1 返しぬいの分、布を奥に入れて、押えを下げます。
- 2 返しぬいボタンを押し続けて、4～5針返しぬいをします。
- 3 ぬいをスタートさせます。
- 4 終わりまで来たら、返しぬいボタンを押し続けて、4～5針返しぬいをします。

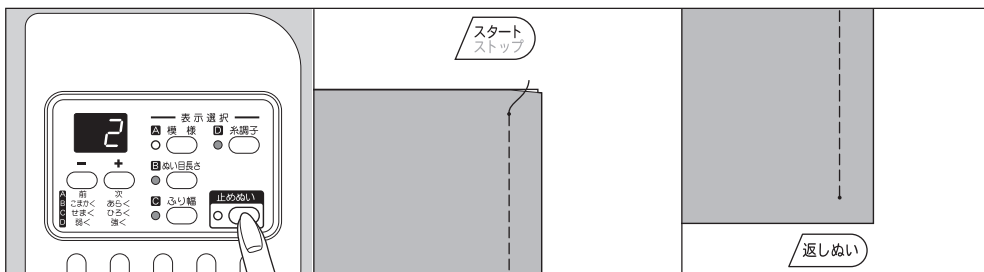
模様 3 は、自動返しぬいの付いた直線ぬいです。（23ページ参照）



■自動止めぬい

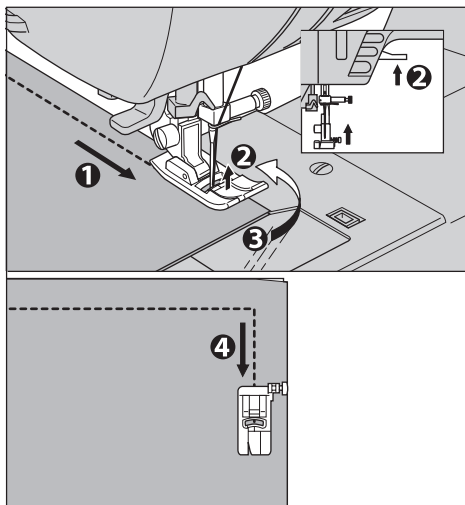
模様のぬい始めとぬい終わりに、自動的に止めぬいをします。

- 1 模様を選んだ後、止めぬいボタンを押します。
止めぬいランプが点灯します。
もう一度押すと取り消されます。
- 2 ぬいをスタートさせます。
ミシンは止めぬいをしてから模様をぬい始めます。
スタート・ストップボタンで中断できます。
- 3 ぬい終わりまで来たら、返しぬいボタンを1回押します。
ミシンは止めぬいをして自動的に停止します。



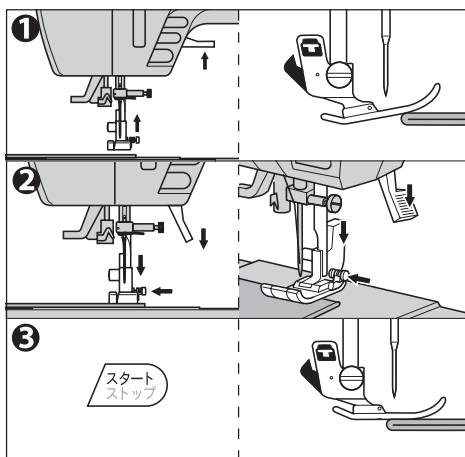
■ぬい方向の変え方

- ❶ 布地の角まで来たら、ストップします。
(針が下位置で停止します。)
- ❷ 押えを上げます。
- ❸ 針を軸にして布地を回し、ぬい方向にセットします。
- ❹ 押えを下げて、続きをぬいます。

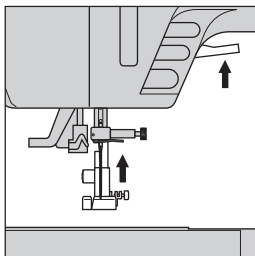


■厚地のぬい始め

- ❶ 厚地の布はしからぬい始めるときに、押えが傾いてスムーズにぬえないときは、押えをいったん上げます。
- ❷ ジグザグ押えの右側にある黒いボタンを押しながら、押え上げレバーを下げます。
- ❸ ぬいをスタートさせます。
押えの傾きが固定されて布が送られます。
ぬい進むと、自動的に固定解除されます。

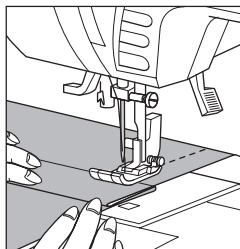


- 押え上げレバーをさらに上げると、押えがもう一段上がり、厚地の布が入れやすくなります。

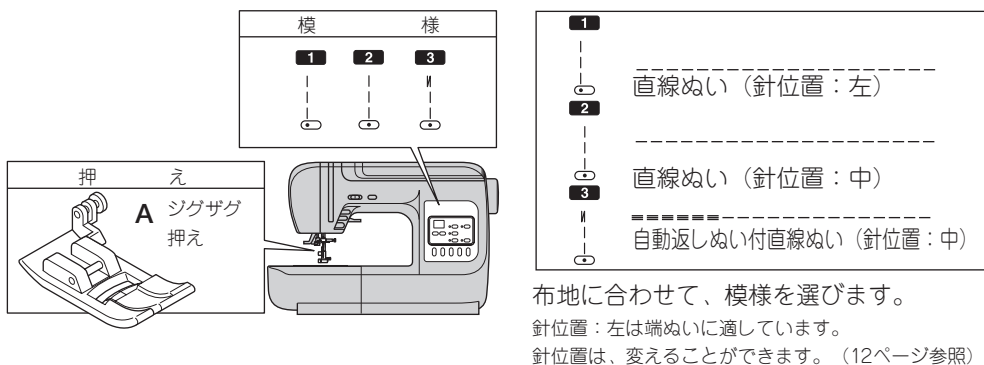


■段ぬい

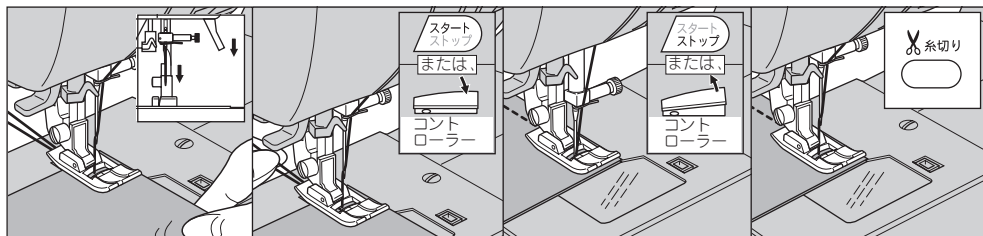
布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。



直線ぬい (地ぬい)



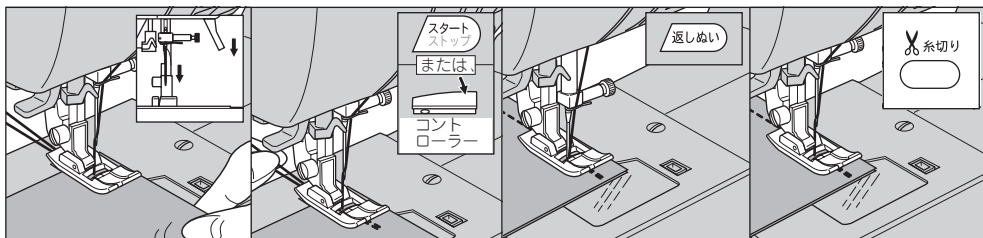
- ① 布を入れ、押えを下げます。
- ② 糸はしをかるく後ろに持ちながら、スタートさせます。
- ③ ぬい終わりまできたら、ストップさせます。
- ④ 糸切りボタンを押します。



ぬっている間、手は布にかかるくそえるようにします。

■ 自動返しぬい付直線ぬい ()

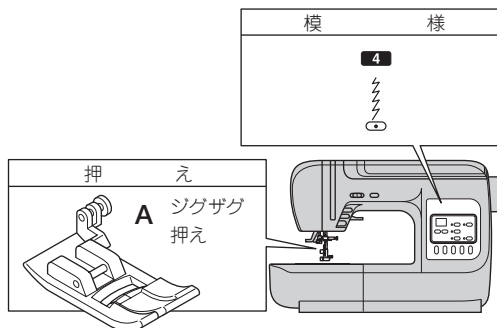
- ① 布を入れ、押えを下げます。
- ② 糸はしをかるく後ろに持ちながら、スタートさせます。
- ③ ぬい終わりまできたら、返しぬいボタンを1回押します。
- ④ 糸切りボタンを押します。



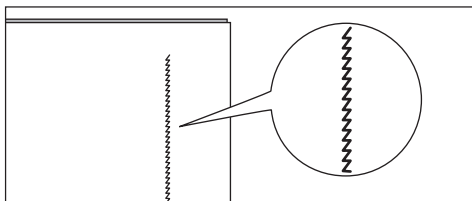
ミシンは数針進んだ後、返しぬいをして、再びぬい進みます。ぬいを中断するには、スタートストップボタンを押します。(コントローラーの場合は、ペダルをはなします)

ミシンは数針返しぬいをした後、再びぬい進み、ぬい終わりの位置で自動的に止まります。

伸縮ぬい

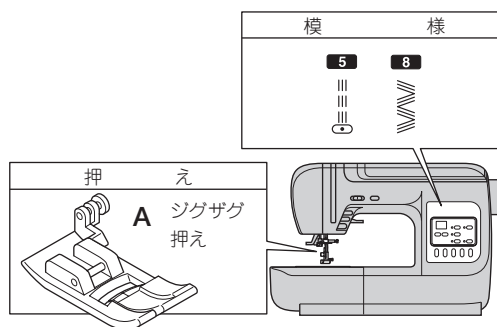


伸縮性のある直線状のぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。

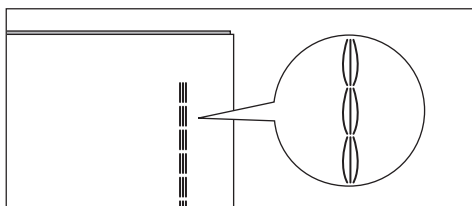


- 伸縮性布地をぬう場合は、ニット針を使うと、目飛びや糸切れを防ぎます。

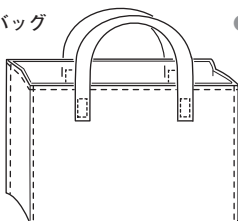
伸縮強化ぬい



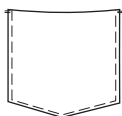
直線とシグザグの3重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。



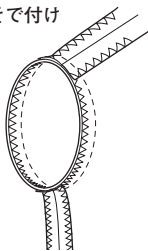
● バッグ



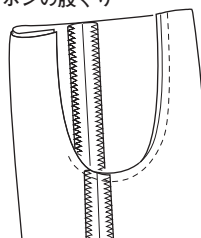
● ポケット



● そで付け



● ズボンの股ぐり

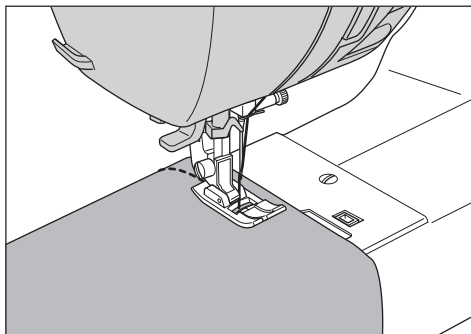


フリーアームぬい

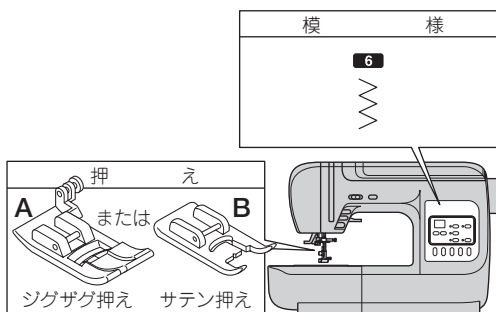
補助テーブルを取りはずすだけでフリーアームミシンになります。

袖口や肩口の始末、ズボンのすそのまつりぬいなどが簡単にできます。

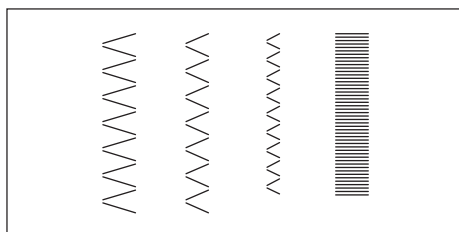
- 補助テーブルの取りはずし方は6ページを参照ください。
- まつりぬいは27ページを参照ください。



ジグザグぬい

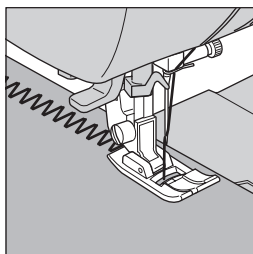


ぬい目長さ、ジグザグのふり幅を調節して
いろいろな形のジグザグぬいができます。

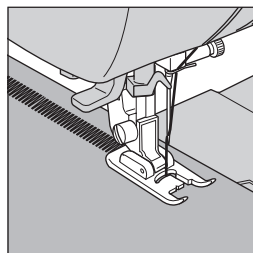


布地のはぎあわせやふ
ちかがりなどのほか、
飾りぬいにも広く用い
られます。

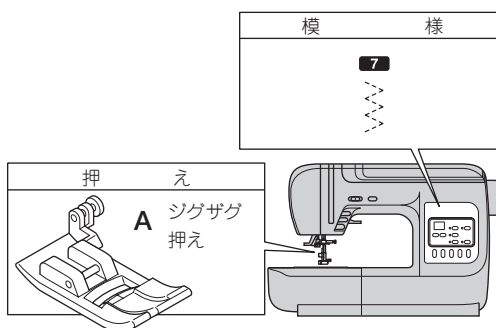
ふちかがりぬいは、26ページ
を参照ください。



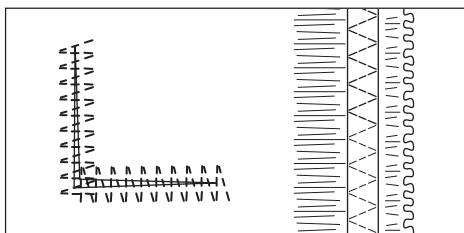
ぬい目長さをこま
かくして密着ぬい
をぬう場合には、
サテン押えをお使
いください。



つくろいぬい (点線ジグザグぬい)

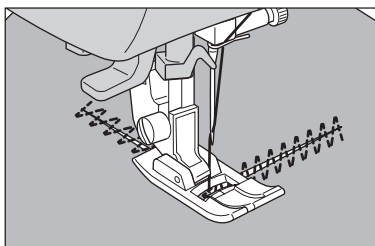


やぶれた布地のつくろいぬいや、ゴムひも
のぬい付けなどに利用します。



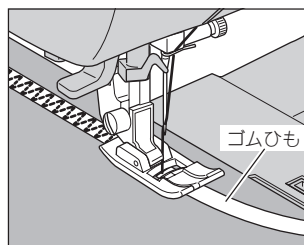
●つくろいぬい

ぬい目の長さをこまかくしてぬいます。



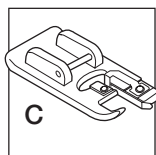
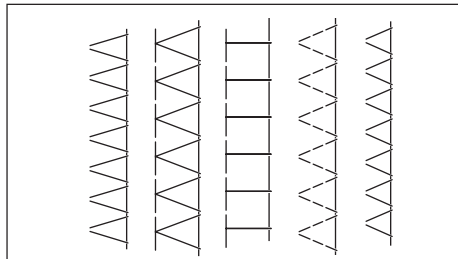
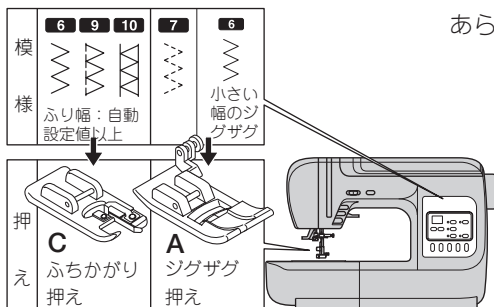
●ゴムひも付け

ゴムひもを前後に伸ばしながらぬい付
けます。



ふちかがりぬい (たち目かがり)

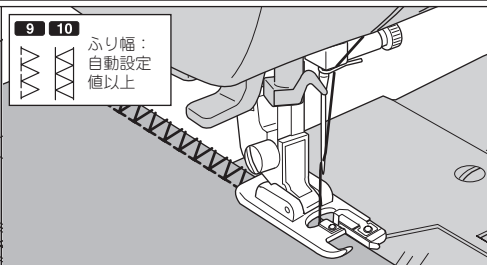
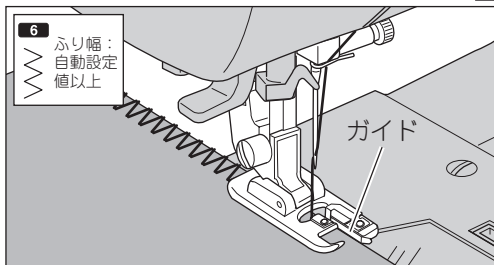
あらゆる布地のたち目のほつれを防ぐぬい方です。



ふちかがり押えを使う場合：
布はしを押えのガイドにあて、針が布はしに落ちるようにしてぬいます。

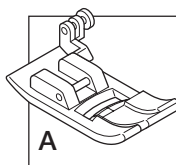
注意：ケガ防止のために；

ふちかがり押えは、必ず模様 6、9、10 に合わせ、ふり幅を自動設定値以上にお使いください。ほかの模様では針が押えにあたり危険です。



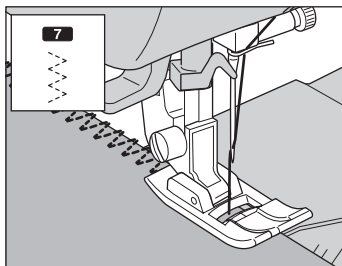
たち目のほつれ止めとして、広く利用します。

かがりぬいと地ぬいが同時にできるぬい方です。

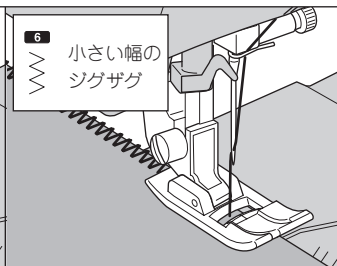


シグザグ押えを使う場合：
針が布はしぎりぎりに落ちるようにしてぬいます。

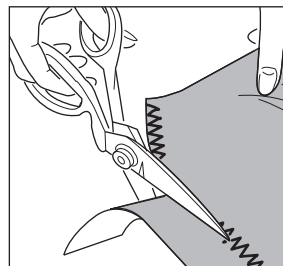
あらかじめ布地の内側をぬい、あとからぬいはしを切り落とす方法もあります。



厚地、伸縮性のある布に利用します。

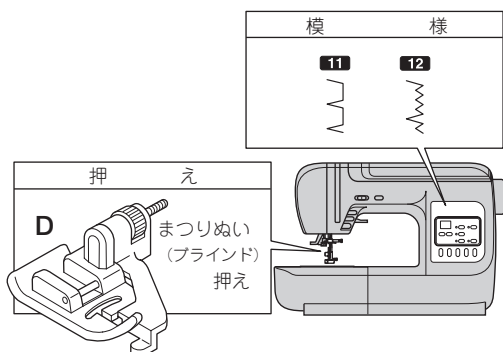


小さい幅のシグザグでかがるときに使います。

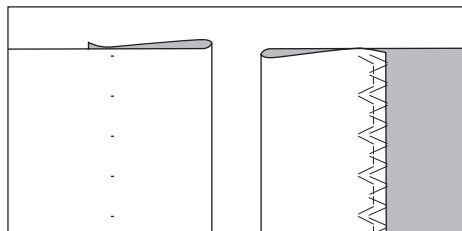


この場合、ぬい糸を切らないように注意してください。

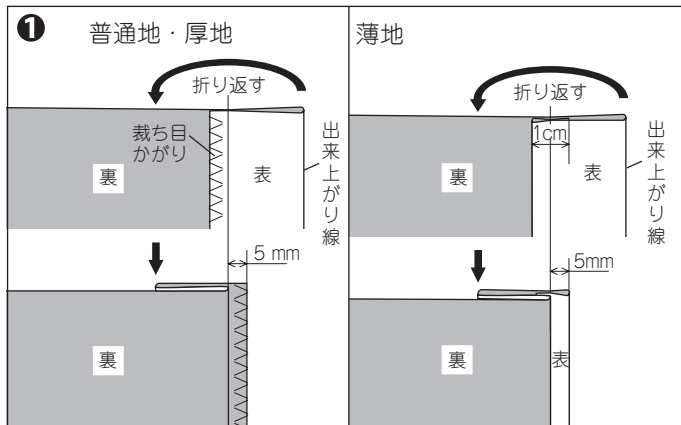
まつりぬい (ブラインドステッチ)



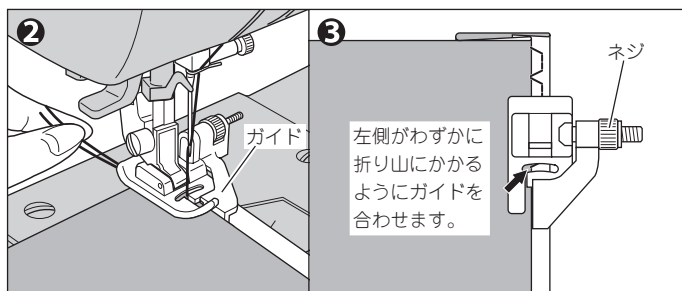
布地の表面に目立たないぬい目を作るぬい方です。ズボンやスカートのすその仕上げなどに使います。



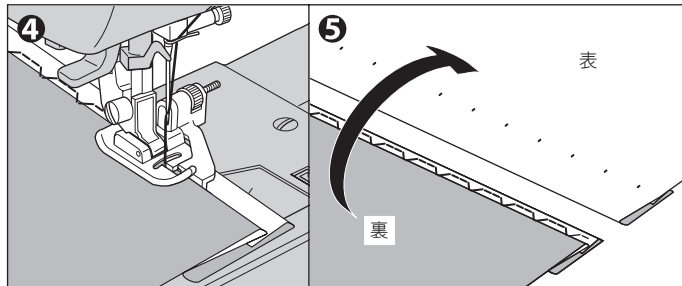
- 1 布を出来上がり線で折り、図のように布端が5mm出るように折り返します。
薄地の場合、布端をあらかじめ1cm中に折り込んでから、5mm出るように折り返します。
ぬい上がり後の布地の裏・表を間違えないように注意してください。



- 2 折り山を押えのガイドにあてます。
- 3 針が最も左側きたときに折り山にわずかにかかるようにガイドの位置を調節します。
ネジを手前に回すとガイドは右に、向う側に回すとガイドは左に移動します。

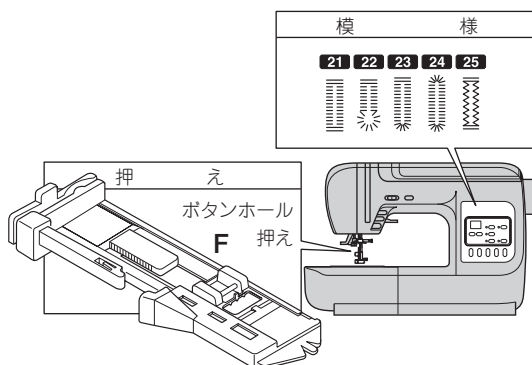


- 4 折り山をガイドにあてながらぬいます。
- 5 ぬい終わりましたら、布を返します。

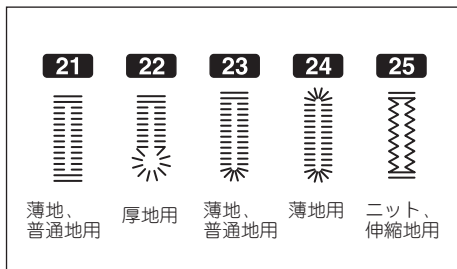


- 針上位置で模様を選ぶと、針は最も左側にくるようになっています。

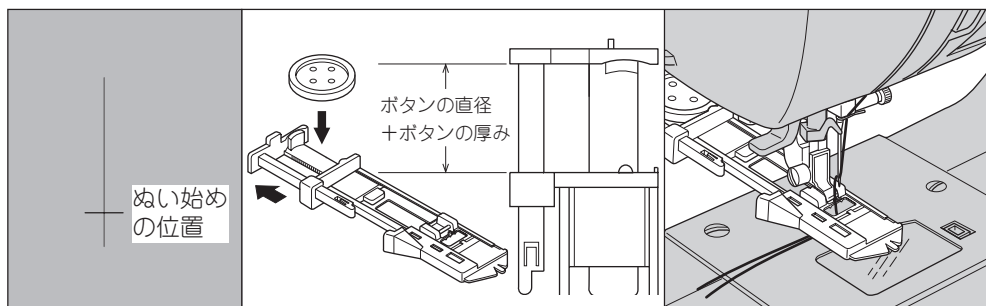
ボタンホールぬい



5種類のボタンホールをそれぞれワンタッチでぬうことができます。



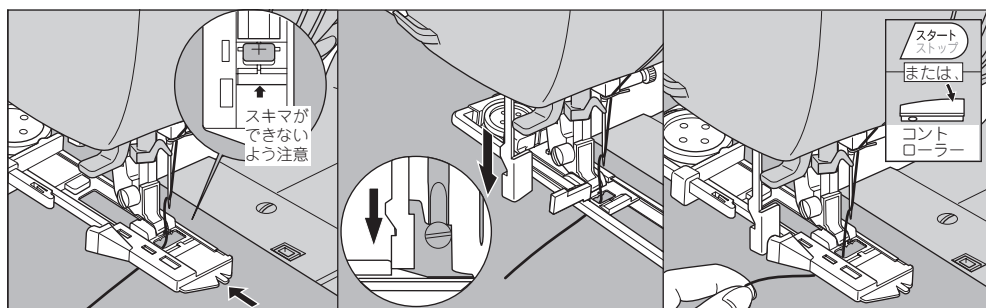
- 1 布地のボタンホールをぬう位置に印をつけます。
- 2 ボタンを押えの台にセットします。
- 3 上糸を押えの穴に通し、上糸と下糸をそろえて左側に出しておきます。



- 台にボタンがのらないとき
台の幅が「ボタンの直径 + ボタンの厚み」になるようにスライドさせます。

糸切りボタンで糸を切ったときは、下糸を出す必要はありません。

- 4 布の印が押えの印に合うように布地を入れ、押えを下げます。
- 5 ボタンホールレバーをいっぱいに下げます。
- 6 上糸を軽く持ちながら、スタートさせます。

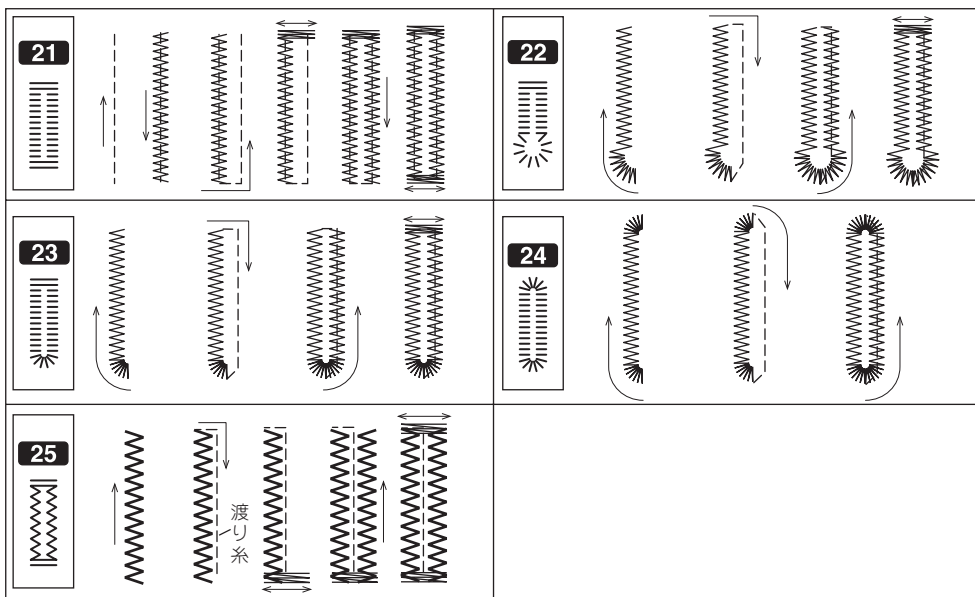


押えの枠と押えの間にスキマができないよう、枠を一番向こう側に戻してください。

ご注意: ボタンホールレバーをきちんと下げないと、お知らせランプが赤く点灯し、スタートしません。(数針ぬって止まります。)

7 図の順序でボタンホールがぬわれていきます。

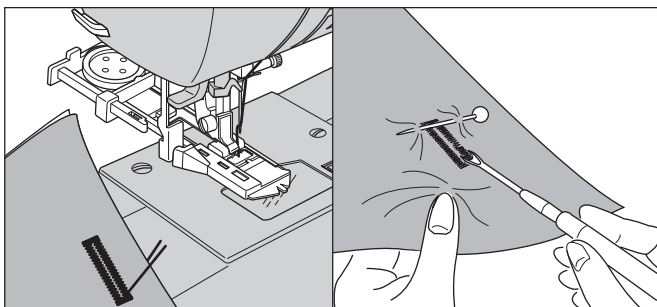
ぬい終わると自動的に止めぬいをして止まります。



- 8** 糸切りボタンを押します。 **9** シームリッパーで穴を開けます。

押えを上げて、布をはずします。

きます。

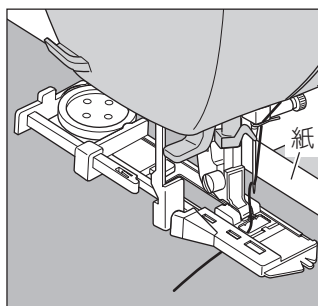


ボタンホールをもう一度ぬうには、押えを上げて押えの枠を一番向こう側に戻してください。

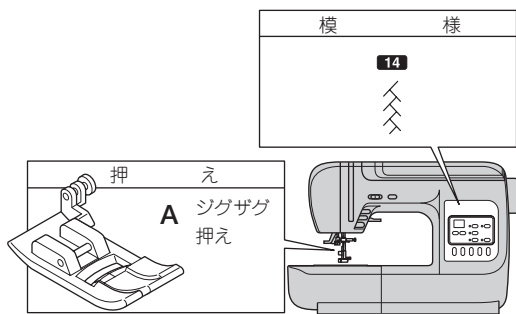
ぬい糸を切らないように注意してください。
かん止めのところにまち針を刺しておくと、切り過ぎがありません。
模様25は、中央の（糸）渡り糸を切って取り除きます。

注意：ケガ防止のために；
シームリッパーで穴を開く時、リッパーの先端に手や指を置かないでください。
すべった時ケガをする恐れがあります。

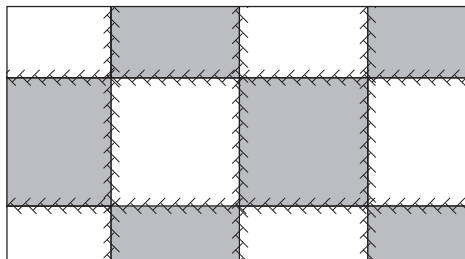
- 伸縮性のある布地の場合裏に紙などをしいてぬいます。ぬい終わったら、紙を取り除きます。



パッチワーク



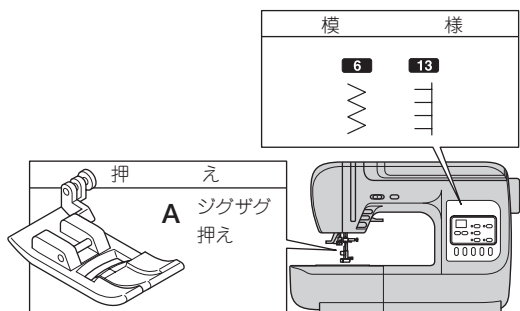
いろいろな布をはぎ合わせ、装飾に用います。



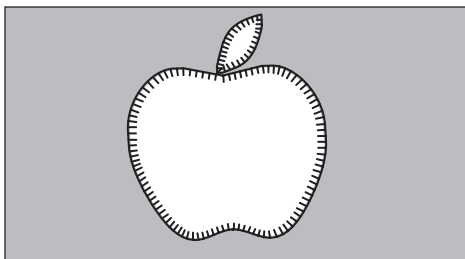
- ① 2枚の布地を中表に合わせて地ぬいをします。
- ② ぬい代をわります。
- ③ 両方の布地に模様がたがるようにしてぬいます。



アップリケ



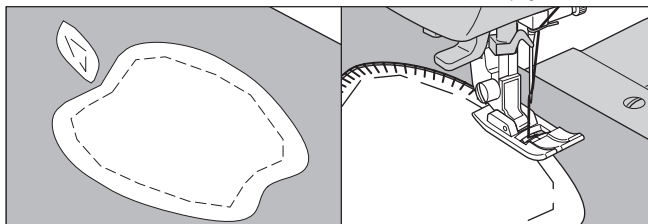
市販や自作のアップリケ布を丈夫にぬい付けます。



- ① アップリケ布を止めます。
- ② アップリケの布はしをたち目かがりと同じ要領でぬいつけます。

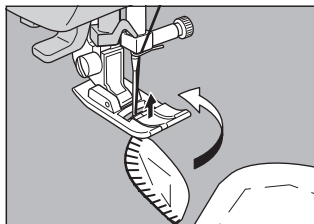
● 急な角度をぬう場合

布はしに針を落とした状態で押えを上げ、布地を回します。

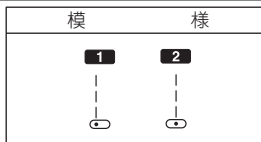


のりづけまたはしつけをします。

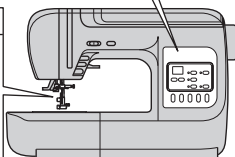
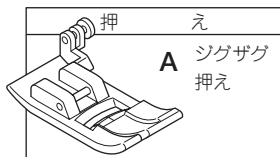
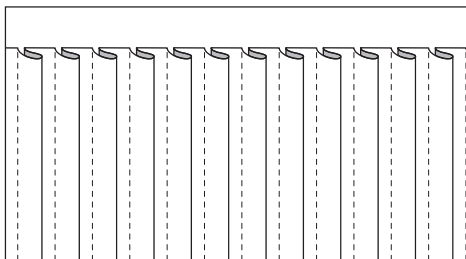
カーブの強いものは、シグザグのふり幅を小さくします。



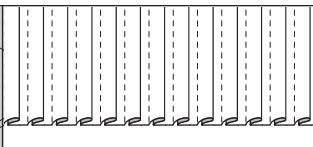
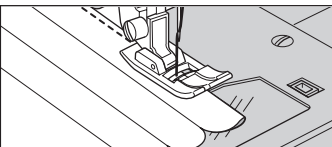
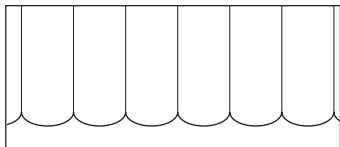
ピンタック



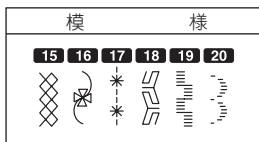
ブラウスなどの装飾に使います。



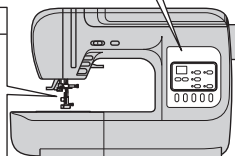
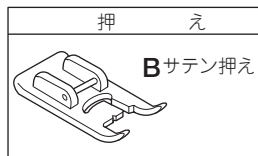
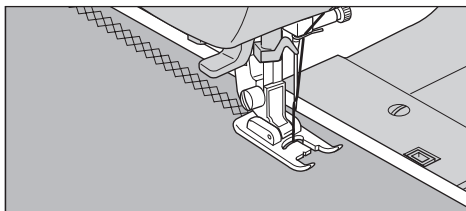
- ① アイロンでピンタックの折り山を整えます。
- ② 折り山を伸ばさないようにしながら、ピンタックをぬいます。
- ③ アイロンで片側に倒します。



飾りぬい

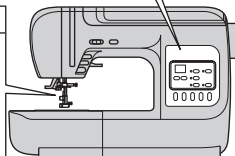
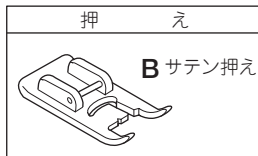
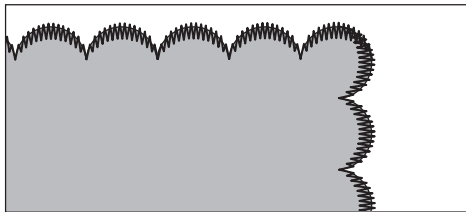


装飾的なぬいに用います。

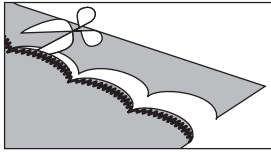
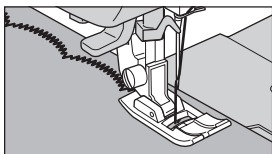


薄い布、伸縮性のある布には、下に紙をしいてぬってください。

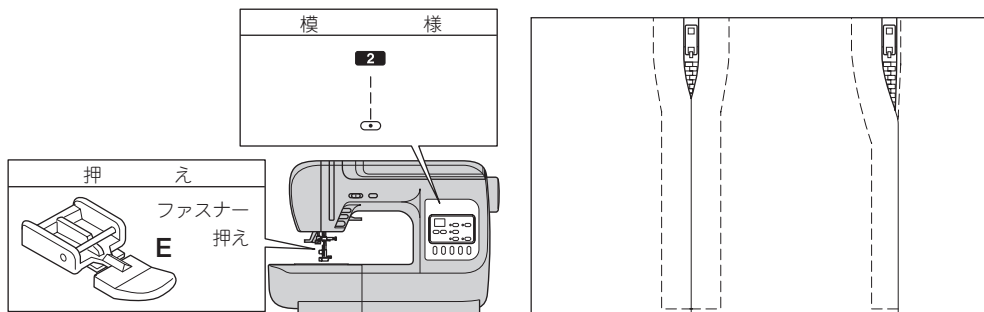
スカラップ ステッチ



- ① 布はしに模様がかからないようにはしを残してぬいます。
- ② 糸を切らないように注意してぬい目によって布を切ります。

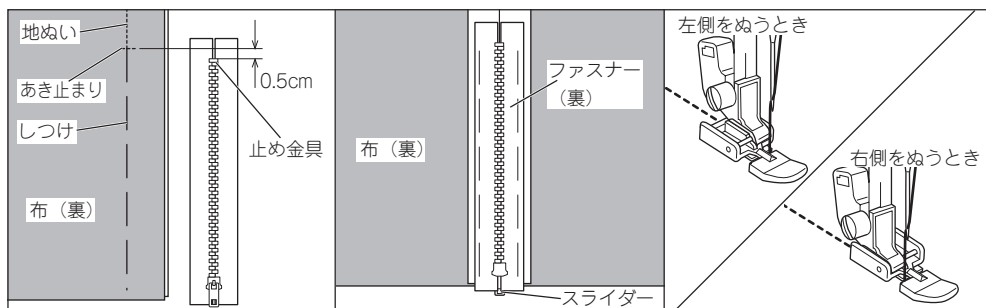


ファスナー付け (つき合わせ・脇あき)



つき合わせ

- ① 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。
- ② ぬい代をわり、ファスナーをしつけます。
- ③ ファスナー押えを取り付けます。

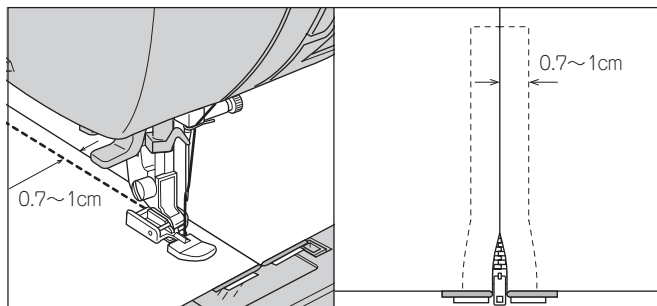


あき部分はしつけをします。

ぬい目線とファスナーの中心を合わせてとめます。
スライダーは手前に倒します。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

- ④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。
- ⑤ あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。



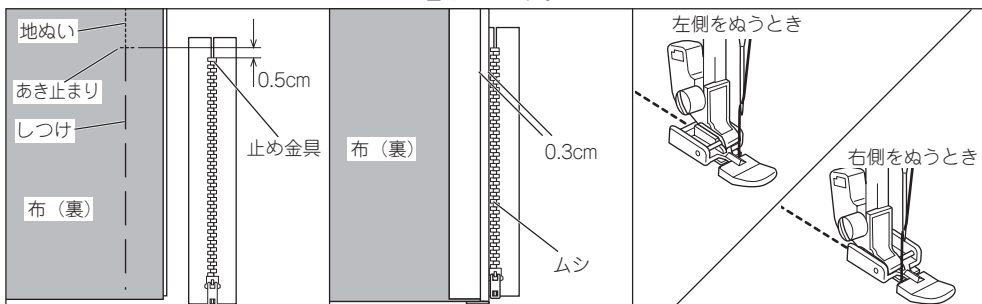
布の合わせ目から0.7~1cm はなしてぬいます。

右側も同様に0.7~1cm はなしてぬいます。

注意：ケガ防止のために；
ファスナー押えは、必ず模様(↓)だけにし、針位置も変えないでください。ほかの模様、針位置では、針が押えにあたり危険です。

脇あき

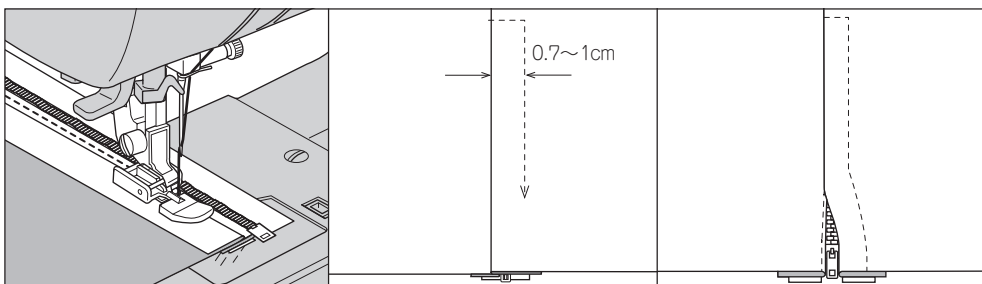
- 1 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。
- 2 ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3cm出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。
- 3 ファスナー押えを取り付けます。



あき部分はしつけをします。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

- 4 ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。
- 5 上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。
- 6 スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

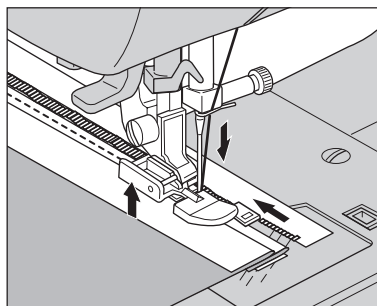


押えがファスナーのムシにのらないようにしてぬいます。

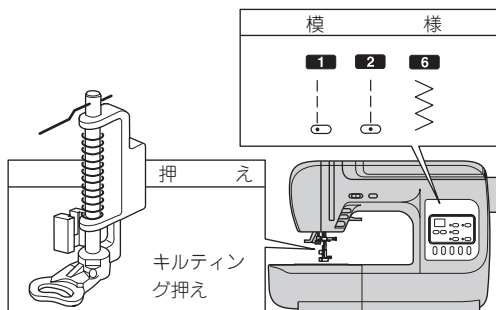
右側は、布の折り目から0.7~1cmはなしてぬいます。

●スライダーをよけてぬうには：

1. スライダーの手前でミシンを止めます。
(針が下位置で止まります。)
2. 押えを上げて、スライダーを向こう側へ下ろします。
3. 押えを下げてぬい続けます。



キルティング押えのご案内 (別売り品)



キルティング押えを使うと、布を手で操作して、ぬう方向を自由に変えられるようにする曲線ぬいができます。
キルティング押えを使うときには、ドロップフィードレバーを左にして、送り歯を下げます。

● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

■キルティング押えの取り付け方

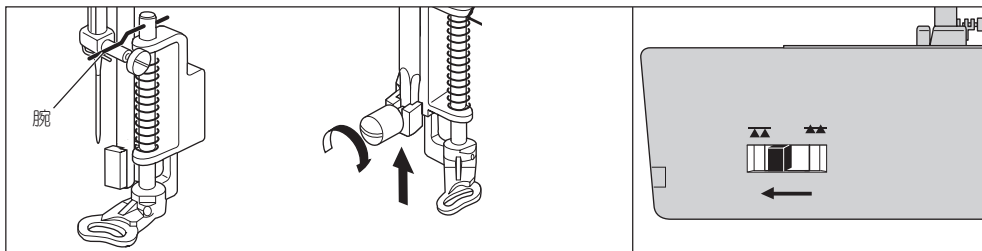


注意：ケガ防止のために；

必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。

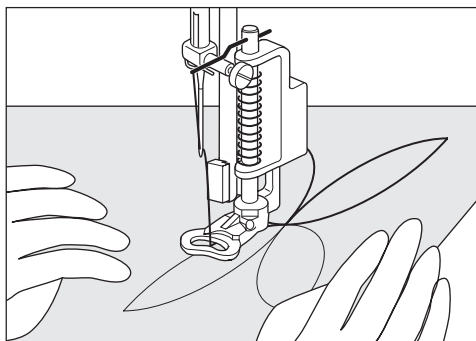


- ① 押えホルダーを取りはずします。
(18ページ参照)
- ② 押えの腕が、針止めの軸の上にくるように取り付け、押えのホルダー部分を上に持ち上げながら、押えホルダー止めねじをしっかりとしめます。
- ③ ドロップフィードレバーを左にして、送り歯を下げます。



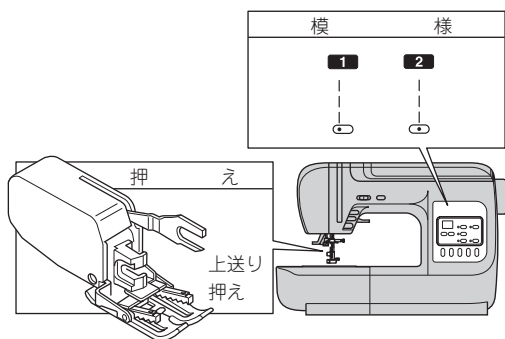
■ぬい方 (曲線ぬい)

- ① 布に模様を下書きします。
薄い紙に書いて、布にのせる方法もあります。(ぬい終わってから紙を取り除きます。)
- ② 布を押えの下に入れ、押えを下げます。
押えは始めは浮いていますが、ぬい始めると針と一緒に上下に動き出します。
- ③ スピードをゆっくりにします。
- ④ 下絵にそって布を動かしてぬいます。
このとき手が針に触れないよう、十分注意してください。



● ぬいが終わったら、ドロップフィードレバーを右に戻して送り歯を上げておいてください。

上送り押えのご案内（別売り品）



くっついたり、伸びたり、また、すべりやすい布地に、上送り押えを使うと2枚の布地がずれることなく、きれいで均一なぬい目が得られます。

次のような布地にお使いください。

- 格子じまやしま地
- ビニール、レザーや、つやのある布地
- パイル地、けば立った布地
- ベルベットやとくにすべりやすい化繊地
- 長いぬい合わせに…

● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

■上送り押えの取り付け方

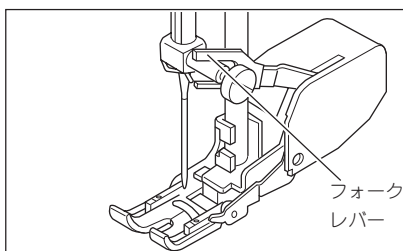
⚠ 注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行なってください。



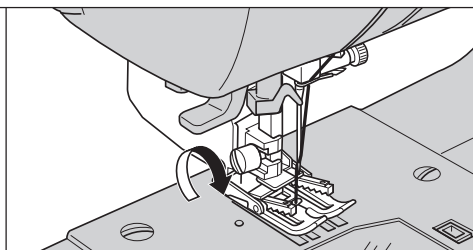
① 押えホルダーを取りはずします。

（18ページ参照）

② 上送り押えのフォークレバーを針止めの軸にかかけます。



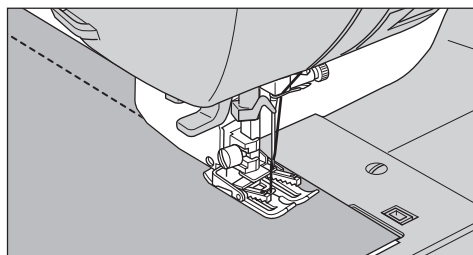
③ 押えのホルダー部を押え棒に後ろから取り付け、押えホルダー止めねじをしっかりとしめます。



■ぬい方

スピードをゆっくりにしてぬってください。

⚠ 注意：ケガ防止のために；
上送り押えは、必ず上記の模様だけにお使いください。



こんなときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてみてください。

不調の状態	原因	処置	参照 ページ
上糸が切れる	● 糸のかけ方がまちがっている	正しくかけ直します	16
	● ボビンケースに糸がからまっている	からんだ糸を取りのぞき掃除します	39
	● 針の取り付け方がまちがっている	正しくつけ直します	19
	● 布地に対して糸が弱すぎる	布地と糸、針の関係を合わせます	19
下糸が切れる	● ボビンのセットがまちがっている	正しくセットし直します	15
	● ボビンケースに糸がからまっている	からんだ糸を取りのぞき掃除します	39
	● 外がまにゴミがたまっている	掃除します	39
ぬい目にとぶ	● 針の取り付け方がまちがっている	正しくつけ直します	19
	● 針が曲がっているか、先がつぶれている	針を取りかえます	19
	● 布地に対して糸と針が合っていない	布地と糸、針の関係を合わせます	19
ぬい目にしわがよる	● 糸のかけ方がまちがっている	正しくかけ直します	16
	● ボビンのセットがまちがっている	正しくセットし直します	15
	● 針の先がつぶれている	針を取りかえます	19
ぬい目に輪ができる	● ボビンのセットがまちがっている	正しくセットし直します	15
	● 糸のかけ方がまちがっている	正しくかけ直します	16
模様がくずれる	● 模様に対して押えが合っていない	模様に合った押えを取りつけます	23～

不調の状態	原因	処置	参照ページ
糸通しができない	● 針が上に上がっていない ● 針の取り付け方がまちがっている ● 針が曲がっている	針上下ボタンで針を上上げます 正しくつけ直します 針を取りかえます	9, 17 19 19
布地を送らない	● ぬい目長さが布地に合っていない ● 送り歯が下がっている ● 送り歯にほこりがかたまっている	ぬい目長さを調整します ドロップフィードレバーを右にして、送り歯を上げます。 掃除します	12 8 39
針が折れる	● 布地を無理に引っ張っている ● 模様に対して押えが合っていない（針が押えにあたっている） ● 針の取り付け方がまちがっているか、しめ方がゆるい ● 布に対して針が細すぎる	手は布地にそえるだけにします 模様に合った押えを取りつけます 正しくつけ直します 布地と糸、針の関係を合わせます	20 23～ 19 19
回転が重く音が高い	● 外がまや送り歯にゴミがたまっている	針板をはずして掃除します	39
ミシンが動かない ●お知らせランプ …緑に点灯 …赤く点灯 …赤く点灯	● 電源プラグの差し込みが不十分である ● 電源スイッチが入っていない ● フットコントローラーが取り付けられていない ● 糸巻き軸が右へ押されている ● 押えが上がっている ● ボタンホールぬいで： ボタンホールレバーが下がっていない ボタンホール押えが取り付けられていない	しっかり差し込みます スイッチを入れます コントローラーで操作するか、 コントローラーをはずします 左へもどします 押えを下げます きちんと下げます ボタンホール押えを取り付けます	7 7 7 14 8 28 28

この頁に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店または「お客様相談係」（41ページ参照）におたずねください。

ミシンのお手入れ

糸くずやほこりがたまると、ぬい調子を悪くしたり、故障の原因にもなります。
いつも清潔にしておいてください。

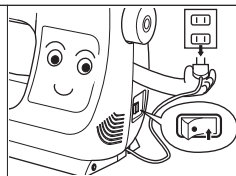
● お知らせ

このミシンのランプには、長寿命のLEDランプを使用しています。

もし、ランプが切れた場合には、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

⚠ 警告；感電、ケガ防止のために；

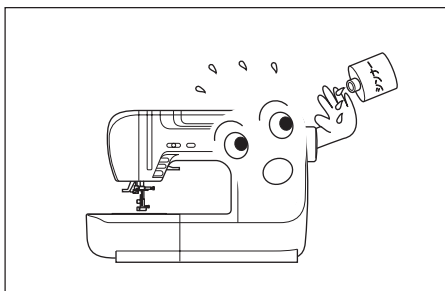
お手入れの際は、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。



■ ミシン表面、ミシンカバーの掃除

やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。

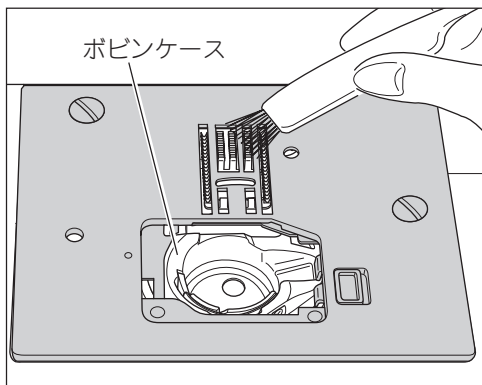
シンナーやベンジンなどでふかないでください。



■ 針板と送り歯の掃除

ボビンカバーとボビンを取りはずし、ブラシなどで掃除してください。

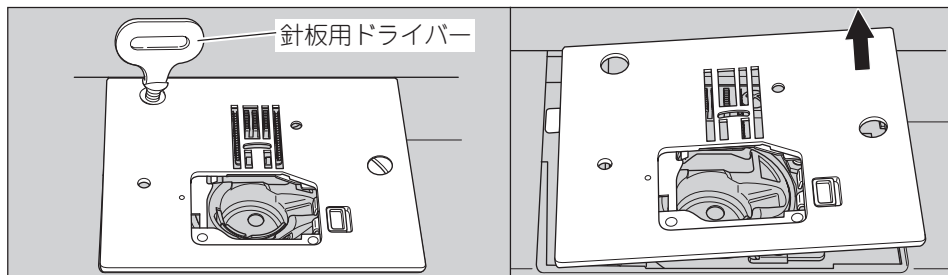
- 外がまやボビンケースには、油をささないでください。



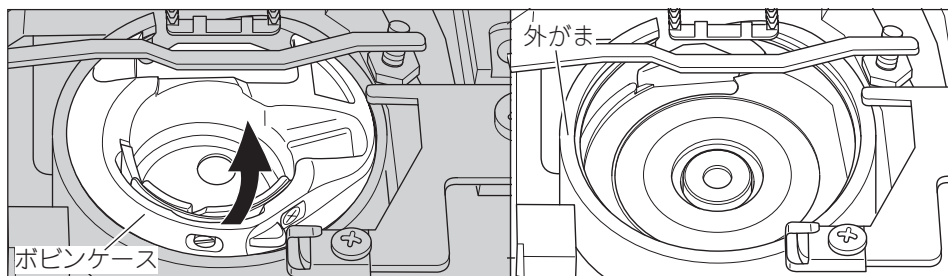
■ 外がまとボビンケースの掃除

定期的に針板を外して、中の外がまやボビンケースを掃除してください。

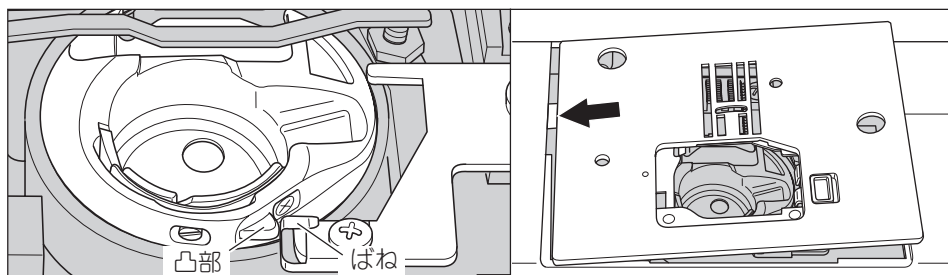
- 1 針と押えホルダーを取りはずします。
ボビンカバーとボビンを取りはずします。
針板止ネジ2本を外します。
- 2 針板の右側を持ち上げて、針板を取りはずします。



- 3 ボビンケースの手前を上を持ち上げて取り出します。
- 4 外がまと送り歯のまわりを掃除します。
●掃除機を使うときれいになります。
ボビンケースのよごれはかわいい布でかくるくふき取ります。



- 5 ボビンケースを外がまの中に手前からすべり込ませます。
ボビンケースの凸部が回転止めのばねに当たるようにします。
- 6 針板左側のツメをミシン本体に差し込んでから、針板止ネジを取り付けます。



修理サービス要領

●修理サービスのご相談

- 1 このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 2 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

- 1 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 二 ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 2 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
 - 3 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
 - 4 このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

155年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

お問い合わせまたはご相談先（純正部品の購入方法）

シンガーミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の弊社「お客様相談係」でも承っておりますのでご遠慮なくお申し越してください。

株式会社 シンガーハッピージャパン

「お客様相談係」

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号
TEL. 03-3837-1865 FAX. 03-3837-0072

- * 住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。
- * シンガー純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記の弊社「お客様相談係」におたずねください。

ミシンの仕様

定 格 電 圧	100 V
消 費 電 力	45 W
周 波 数	50Hz/60Hz
ラ ン プ	白色LED
寸 法	幅：439 mm × 高さ：287 mm × 奥行き：195 mm
重 量	7.5 kg

SINGER®
シンガーミン

株式会社 シンガーハッピージャパン

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号
電話 03-3837-1865